XMATeX-ja 用 jclasses 互換クラス

森見幸正 (h20y6m)

作成日:2022/11/06

Contents

1	オブ	ションスイッチ	3
2	オプ	ションの宣言	4
	2.1	用紙オプション	5
	2.2	サイズオプション	5
	2.3	横置きオプション	6
	2.4	トンボオプション	6
	2.5	面付けオプション	6
	2.6	組方向オプション	7
	2.7	両面、片面オプション	7
	2.8	二段組オプション・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	7
	2.9	表題ページオプション	7
	2.10	右左起こしオプション	7
	2.11	数式のオプション	7
	2.12	参考文献のオプション	8
	2.13	日本語ファミリ宣言の抑制、和欧文両対応の数式文字	8
	2.14	ドラフトオプション	8
	2.15	オプションの実行	8
3	フォ	ント	10
4	レイ	アウト	14
	4.1	用紙サイズの決定・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	14
	4.2	段落の形	14
	4.3	ページレイアウト	15
		4.3.1 縦方向のスペース	15
		4.3.2 本文領域	16
		4.3.3 マージン	21

	4.4	脚注	24
	4.5	フロート	24
		4.5.1 フロートパラメータ	25
		4.5.2 フロートオブジェクトの上限値	26
5	改ペ	ージ(日本語 $\mathrm{T_EX}$ 開発コミュニティ版のみ)	27
3	~-	ジスタイル	29
	6.1	マークについて	29
	6.2	plain ページスタイル	30
	6.3	jpl@in ページスタイル	30
	6.4	headnombre ページスタイル	30
	6.5	footnombre ページスタイル	30
	6.6	headings スタイル	31
	6.7	bothstyle スタイル	32
	6.8	myheading スタイル	33
7		・ ・コマンド	33
•	7.1	表題	33
	7.2	概要	38
	7.3	章見出し	39
		7.3.1 マークコマンド	39
		7.3.2 カウンタの定義	39
		7.3.3 前付け、本文、後付け	41
		7.3.4 ボックスの組み立て	41
		7.3.5 part レベル	42
		7.3.6 chapter レベル	45
		7.3.7 下位レベルの見出し	46
		7.3.8 付録	47
	7.4	リスト環境	48
		7.4.1 enumerate 環境	50
		7.4.2 itemize 環境	51
		7.4.3 description 環境	52
		7.4.4 verse 環境	52
		7.4.5 quotation 環境	52
		7.4.6 quote 環境	53
	7.5	フロート	53
		7.5.1 figure 環境	53
		7.5.2 table 環境	54
	7.6	キャプション	55
		コーンドルニュー との部点	

		7.7.1	array と tabular 環境	55			
		7.7.2	tabbing 環境	56			
		7.7.3	minipage 環境	56			
		7.7.4	framebox 環境	56			
		7.7.5	equation と eqnarray 環境	56			
8	フォ	ントコ	コマンド	56			
9	相互	参照		57			
	9.1	目次		57			
		9.1.1	本文目次	59			
		9.1.2	図目次と表目次	61			
	9.2	参考式	文 <mark>献</mark>	62			
	9.3	索引		63			
	9.4	脚注		63			
10	今日	の日付	t	64			
11 初期設定 65							

このファイルは、X田子TEX-ja 用 j classes 互換クラスファイルです。 DOCSTRIP プログラムによって、横組用のクラスファイルと縦組用のクラスファイルを作成することができます。

次に DOCSTRIP プログラムのためのオプションを示します。

オプション	意味
article	article クラスを生成
report	report クラスを生成
book	book クラスを生成
10pt	10pt サイズの設定を生成
11pt	11pt サイズの設定を生成
12pt	12pt サイズの設定を生成
bk	book クラス用のサイズの設定を生成
tate	縦組用の設定を生成
yoko	横組用の設定を生成

1 オプションスイッチ

ここでは、後ほど使用するいくつかのコマンドやスイッチを定義しています。

\c@@paper 用紙サイズを示すために使います。A4, A5, B4, B5 用紙はそれぞれ、1, 2, 3, 4 として表されます。

- 1 (*article | report | book)
- 2 \newcounter{@paper}

- \if@landscape 用紙を横向きにするかどうかのスイッチです。デフォルトは、縦向きです。
 3 \newif\if@landscape \@landscapefalse
 - **\@ptsize** 組版をするポイント数の一の位を保存するために使います。0, 1, 2 のいずれかです。
 - 4 \newcommand{\@ptsize}{}
- \if@restonecol 二段組時に用いるテンポラリスイッチです。
 - 5 \newif\if@restonecol
- \if@titlepage タイトルページやアブストラクト(概要)を独立したページにするかどうかのス イッチです。report と book スタイルのデフォルトでは、独立したページになりま す。
 - 6 \newif\if@titlepage
 - 7 (article)\@titlepagefalse
 - 8 (report | book) \@titlepagetrue
- \if@openright chapter レベルを右ページからはじめるかどうかのスイッチです。横組では奇数ページ、縦組では偶数ページから始まることになります。report クラスのデフォルトは、"no"です。book クラスのデフォルトは、"yes"です。
 - 9 (!article) \newif\if@openright
- \ifCopenleft chapter レベルを左ページからはじめるかどうかのスイッチです。日本語 TeX 開発コミュニティ版で新たに追加されました。横組では偶数ページ、縦組では奇数ページから始まることになります。report クラスと book クラスの両方で、デフォルトは "no" です。
 - 10 (!article) \newif \if@openleft
- \if@mainmatter スイッチ \@mainmatter が真の場合、本文を処理しています。このスイッチが偽の場合は、\chapter コマンドは見出し番号を出力しません。
 - 11 \langle book \\ \newif \\ if \@mainmatter \\ @mainmattertrue

\hour

\minute 15

- 12 \newcount\hour
- 13 \newcount\minute
- 14 \hour\time \divide\hour by 60\relax
- 15 \@tempcnta\hour \multiply\@tempcnta 60\relax
- 16 \minute\time \advance\minute-\@tempcnta
- \if \mathfrak{g} stysize pIF \mathfrak{g} X $_{\mathcal{E}}$ 2.09 互換モードで、スタイルオプションに a4j,a5p などが指定されたときの動作をエミュレートするためのフラグです。
 - 17 \newif\if@stysize \@stysizefalse

2 オプションの宣言

ここでは、クラスオプションの宣言を行なっています。

2.1 用紙オプション

```
用紙サイズを指定するオプションです。
```

```
18 \DeclareOption{a4paper}{\setcounter{@paper}{1}%
     \setlength\paperheight {297mm}%
     \setlength\paperwidth {210mm}}
 21 \DeclareOption{a5paper}{\setcounter{@paper}{2}%
 22 \setlength\paperheight {210mm}
 23 \setlength\paperwidth {148mm}}
 24 \DeclareOption{b4paper}{\setcounter{@paper}{3}%
 25 \setlength\paperheight {364mm}
 26 \setlength\paperwidth {257mm}}
 27 \DeclareOption{b5paper}{\setcounter{@paper}{4}%
    \setlength\paperheight {257mm}
    \setlength\paperwidth {182mm}}
ドキュメントクラスに、以下のオプションを指定すると、通常よりもテキストを組
み立てる領域の広いスタイルとすることができます。
 \setlength\paperheight {297mm}%
 33 \setlength\paperwidth {210mm}}
 34 \DeclareOption{a5j}{\setcounter{@paper}{2}\@stysizetrue
 35 \setlength\paperheight {210mm}
 36 \setlength\paperwidth {148mm}}
 37 \DeclareOption{b4j}{\setcounter{@paper}{3}\@stysizetrue
 38 \setlength\paperheight {364mm}
 39
     \setlength\paperwidth {257mm}}
 40 \DeclareOption{b5j}{\setcounter{@paper}{4}\@stysizetrue
    \setlength\paperheight {257mm}
     \setlength\paperwidth {182mm}}
 42
 43 %
 44 \DeclareOption{a4p}{\setcounter{@paper}{1}\@stysizetrue
     \setlength\paperheight {297mm}%
     \setlength\paperwidth {210mm}}
 47 \DeclareOption{a5p}{\setcounter{@paper}{2}\@stysizetrue
 48 \setlength\paperheight {210mm}
     \setlength\paperwidth {148mm}}
 50 \DeclareOption{b4p}{\setcounter{@paper}{3}\@stysizetrue
 51 \setlength\paperheight {364mm}
     \setlength\paperwidth {257mm}}
 53 \DeclareOption{b5p}{\setcounter{@paper}{4}\@stysizetrue
 54 \setlength\paperheight {257mm}
    \setlength\paperwidth {182mm}}
```

2.2 サイズオプション

基準となるフォントの大きさを指定するオプションです。

```
56 \if@compatibility
57 \renewcommand{\@ptsize}{0}
58 \else
59 \DeclareOption{10pt}{\renewcommand{\@ptsize}{0}}
60 \fi
```

```
61 \DeclareOption{11pt}{\renewcommand{\@ptsize}{1}} 62 \DeclareOption{12pt}{\renewcommand{\@ptsize}{2}}
```

2.3 横置きオプション

このオプションが指定されると、用紙の縦と横の長さを入れ換えます。

- 63 \DeclareOption{landscape}{\@landscapetrue
- 64 \setlength\@tempdima{\paperheight}%
- 65 \setlength\paperheight{\paperwidth}%
- 66 \setlength\paperwidth{\@tempdima}}

2.4 トンボオプション

tombow オプションが指定されると、用紙サイズに合わせてトンボを出力します。 このとき、トンボの脇に DVI を作成した日付が出力されます。作成日付の出力を 抑制するには、tombow ではなく、tombo と指定をします。

ジョブ情報の書式は元々 filename : 2017/3/5(13:3) のような書式でしたが、jsclasses にあわせて桁数固定の filename (2017-03-05 13:03) に直しました。

- 67 \newif\iftombow
- 68 \newif\iftombowdate
- 69 \newdimen\@tombowwidth
- 70 \newtoks\@bannertoken
- $71 \setminus tombowfalse$
- 72 \tombowdatetrue
- 73 \setlength{\@tombowwidth}{.1\p@}%
- 74 \@bannertoken{}
- 75 \DeclareOption{tombow}{\%}
- 76 \tombowtrue \tombowdatetrue
- 77 \setlength{\@tombowwidth}{.1\p@}%
- 78 \@bannertoken{%
- 79 \jobname\space(\number\year-\two@digits\month-\two@digits\day
- 80 \space\two@digits\hour:\two@digits\minute)}}
- $81 \label{lem:bo} $81 \rightarrow \mathbb{K} .$
- 82 \tombowtrue \tombowdatefalse
- 83 \setlength{\Qtombowwidth}{.1\pQ}}

2.5 面付けオプション

このオプションが指定されると、トンボオプションを指定したときと同じ位置に 文章を出力します。作成した DVI をフィルムに面付け出力する場合などに指定を します。

- 84 \DeclareOption{mentuke}{%
- 85 \tombowtrue \tombowdatefalse
- 86 \setlength{\@tombowwidth}{\z@}}

2.6 組方向オプション

このオプションが指定されると、縦組で組版をします。

[X¬I¬T¬X-ja] 縦組みは xelatex ja パッケージのオプションとして指定します。

87 \DeclareOption{tate}{%

- 88 \PassOptionsToPackage{tate}{xelatexja}%
- 89 \AtBeginDocument{\message{《縦組モード》}}%

90 }

2.7 両面、片面オプション

twoside オプションが指定されると、両面印字出力に適した整形を行ないます。

- 91 \DeclareOption{oneside}{\@twosidefalse}
- 92 \DeclareOption{twoside}{\@twosidetrue}

2.8 二段組オプション

- 二段組にするかどうかのオプションです。
 - 93 \DeclareOption{onecolumn}{\@twocolumnfalse}
 - 94 \DeclareOption{twocolumn}{\@twocolumntrue}

2.9 表題ページオプション

@titlepage が真の場合、表題を独立したページに出力します。

- 95 \DeclareOption{titlepage}{\@titlepagetrue}
- 96 \DeclareOption{notitlepage}{\@titlepagefalse}

2.10 右左起こしオプション

chapter を右ページあるいは左ページからはじめるかどうかを指定するオプションです。openleft オプションは日本語 T_EX 開発コミュニティによって追加されました。

- 97 (!article) \if@compatibility
- 98 $\langle book \rangle \backslash @openrighttrue$
- 99 (!article)\else
- $100 \ \langle !article \rangle \ \backslash DeclareOption \{ open right \} \{ \land Open right true \land Open left false \}$
- $101 \ \langle !article \rangle \ \backslash DeclareOption \{ openleft \} \{ \ \backslash Copenleft true \ \backslash Copenleft \} \}$
- 103 (!article)\fi

2.11 数式のオプション

leqno を指定すると、数式番号を数式の左側に出力します。fleqn を指定するとディスプレイ数式を左揃えで出力します。

- 104 \DeclareOption{leqno}{\input{leqno.clo}}
- 105 \DeclareOption{fleqn}{\input{fleqn.clo}}

2.12 参考文献のオプション

参考文献一覧を"オープンスタイル"の書式で出力します。これは各ブロックが改行で区切られ、\bibindent のインデントが付く書式です。

106 \DeclareOption{openbib}{%

参考文献環境内の最初のいくつかのフックを満たします。

```
107 \AtEndOfPackage{%
108 \renewcommand\@openbib@code{%
109 \advance\leftmargin\bibindent
110 \itemindent -\bibindent
111 \listparindent \itemindent
112 \parsep \z@
113 }%
```

そして、\newblock を再定義します。

114 \renewcommand\newblock{\par}}}

2.13 日本語ファミリ宣言の抑制、和欧文両対応の数式文字

 $pIAT_EX 2_{\varepsilon}$ は、このあと、数式モードで直接、日本語を記述できるように数式ファミリを宣言します。しかし、 T_EX で扱える数式ファミリの数が 16 個なので、その他のパッケージと組み合わせた場合、数式ファミリを宣言する領域を超えてしまう場合があるかもしれません。そのときには、残念ですが、そのパッケージか、数式内に直接、日本語を記述するのか、どちらかを断念しなければなりません。このクラスオプションは、数式内に日本語を記述するのをあきらめる場合に用います。

disablejfam オプションを指定しても \textmc や \textgt などを用いて、数式内に日本語を記述することは可能です。

日本語 T_{EX} 開発コミュニティによる補足:コミュニティ版 pI AT_{EX} の 2016/11/29 以降の版では、 $e-pT_{EX}$ の拡張機能(通称「旧 FAM256 パッチ」)が利用可能な場合に、I AT_{EX} の機能で宣言できる数式ファミリ(数式アルファベット)の上限を 256 個に増やしています。したがって、新しい環境では disable jfam を指定しなくても上限を超えることが起きにくくなっています。

[X元ATFX-ja] 常に disable jfam 相当です。

2.14 ドラフトオプション

draft オプションを指定すると、オーバフルボックスの起きた箇所に、5pt の罫線が引かれます。

```
115 \DeclareOption{draft}{\setlength\overfullrule{5pt}}
116 \DeclareOption{final}{\setlength\overfullrule{0pt}}
117 \( / \article \| report \| \book \\)
```

2.15 オプションの実行

オプションの実行を行ないます。

```
118 (*article | report | book)
                            119 (*article)
                            120 (tate) \ExecuteOptions{a4paper,10pt,oneside,onecolumn,final,tate}
                            121 (yoko) \ExecuteOptions{a4paper, 10pt, oneside, onecolumn, final}
                            122 (/article)
                            123 (*report)
                            124 \tate\ \ExecuteOptions{a4paper,10pt,oneside,onecolumn,final,openany,tate}
                            125 (yoko) \ExecuteOptions{a4paper,10pt,oneside,onecolumn,final,openany}
                            126 (/report)
                            127 \langle *book \rangle
                            128 (tate) \ExecuteOptions{a4paper,10pt,twoside,onecolumn,final,openright,tate}
                            129 (yoko) \ExecuteOptions{a4paper,10pt,twoside,onecolumn,final,openright}
                            130 (/book)
                            131 \ProcessOptions\relax
\Cjascale このクラスファイルが意図する和文スケール値(1zw÷要求サイズ)を表す実数
                          値マクロ \Cjascale を定義します。このクラスでは、jclasses の和文スケール値
                          と同じ 0.962216 です。
                            132 \def\Cjascale{0.962216}
                              [X元ATrX-ja] パッケージを読み込みます。
                            133 \RequirePackage[jascale=\Cjascale] {xelatexja}
                            134 \ExplSyntaxOn
                            135 \cs_new:Npn \xltjc@yoko@hbox #1
                            136
                                        {
                            137
                                              \xltj_if_tate_text:TF
                            138
                            139
                                                        \mode_if_vertical:TF
                            140
                                                             { \use:n }
                                                             { \xltj_box_tjabaselineshift:n }
                            142
                                                        { \xltj_yoko_in_tate_hbox:n {#1} }
                            143
                            144
                                                        \hbox:n {#1}
                            145
                            146
                            147
                            148 \cs_new:Npn \xltjc@tate@vbox@to@ht #1#2
                            149
                                              \xltj_if_tate_text:TF
                            150
                            151
                                                        \vbox_to_ht:nn {#1} {#2}
                            152
                            153
                            154
                                                        \mode_if_vertical:TF
                            155
                                                             { \use:n }
                            156
                                                             { \xltj_box_yjabaselineshift:n }
                            157
                                                        { \xline \xlin
                            158
                            159
                            160
                                        }
                            161 \ExplSyntaxOff
```

[X¬IAT_FX-ja] トンボの設定をします。

```
162 \iftombow
163 \xltjTombowSetup{
       tombow=true.
164
       banner={\the\@bannertoken},
165
       thickness=\@tombowwidth,
166
167 }
168 \fi
サイズクラスのロードを行ないます。
169 \langle book \& tate \rangle \setminus [xltjtbk1 \land @ptsize.clo \rangle
170 (!book & tate)\input{xltjtsize1\@ptsize.clo}
171 (book & yoko)\input{xltjbk1\@ptsize.clo}
172 (!book & yoko)\input{xltjsize1\@ptsize.clo}
縦組用クラスファイルの場合は、ここで plext.sty も読み込みます。
[X元ATrX-ja] 代わりに xlt jext.sty を読み込みます。
173 \RequirePackage{xltjext}
174 (/article | report | book)
```

3 フォント

ここでは、IATEX のフォントサイズコマンドの定義をしています。フォントサイズコマンドの定義は、次のコマンドを用います。

 $\ensuremath{\texttt{Qsetfont-size}}\ensuremath{\langle baselineskip \rangle}$

〈font-size〉これから使用する、フォントの実際の大きさです。

〈baselineskip〉選択されるフォントサイズ用の通常の \baselineskip の値です (実際は、\baselinestretch * 〈baselineskip〉の値です)。

数値コマンドは、次のように LATFX カーネルで定義されています。

\normalsize 基本サイズとするユーザレベルのコマンドは\normalsize です。 LATEX の内部で \Cnormalsize は \Cnormalsize を使用します。

\normalsize マクロは、\abovedisplayskip と \abovedisplayshortskip、および \belowdisplayshortskipの値も設定をします。 \belowdisplayskip は、つねに \abovedisplayskip と同値です。

また、リスト環境のトップレベルのパラメータは、つねに \@listI で与えられます。

```
175 \langle *10pt \mid 11pt \mid 12pt \rangle
```

176 \renewcommand{\normalsize}{%

177 $\langle 10pt \& yoko \rangle$ \@setfontsize\normalsize\@xpt{15}%

```
178 (11pt & yoko)
                    \@setfontsize\normalsize\@xipt{15.5}%
179 (12pt & yoko)
                    \@setfontsize\normalsize\@xiipt{16.5}%
180 \langle 10pt \& tate \rangle
                   \@setfontsize\normalsize\@xpt{17}%
181 (11pt & tate)
                   \@setfontsize\normalsize\@xipt{17}%
182 (12pt & tate)
                   \@setfontsize\normalsize\@xiipt{18}%
183 (*10pt)
     \abovedisplayskip 10\p@ \@plus2\p@ \@minus5\p@
     \abovedisplayshortskip \z@ \@plus3\p@
185
     \belowdisplayshortskip 6\p@ \@plus3\p@ \@minus3\p@
186
187 (/10pt)
188 (*11pt)
     \abovedisplayskip 11\p@ \@plus3\p@ \@minus6\p@
189
     \above displays hortskip \z@ \@plus3\p@
190
     \belowdisplayshortskip 6.5\p@ \@plus3.5\p@ \@minus3\p@
191
192 (/11pt)
193 (*12pt)
     \abovedisplayskip 12\p@ \@plus3\p@ \@minus7\p@
194
     \abovedisplayshortskip \z@ \@plus3\p@
195
     \label{lem:condition} $$ \below displays hortskip 6.5 p@ \@plus 3.5 p@ \@minus 3 p@ \\
196
197 (/12pt)
      \belowdisplayskip \abovedisplayskip
198
      \let\@listi\@listI}
199
 ここで、ノーマルフォントを選択し、初期化をします。
```

\normalsize を robust にします。すぐ上で \DeclareRobustCommand とせずに、カーネルの定義を \renewcommand した後に \MakeRobust を使っている理由は、ログに LaTeX Info: Redefining \normalsize on input line ... というメッセージを出したくないからです。ただし、latexrelease パッケージで 2015/01/01 より昔の日付に巻き戻っている場合は \MakeRobust が定義されていません。

```
201 \ifx\MakeRobust\Qundefined \else 202 \MakeRobust\normalsize 203 \fi
```

200 \normalsize

\Cht 基準となる長さの設定をします。これらのパラメータは plfonts.dtx で定義され \Cdp ています。基準とする文字を「全角空白」(EUC コード 0xA1A1) から「漢」(JIS \Cwd コード 0x3441) へ変更しました。

\Cvs $[X_{T} I + T_{E} X_{-ja}] X_{T} I_{E} X_{-ja}$ ではボックスの高さと深さはグリフ毎に異なるため、\Chs $X_{T} I + T_{E} X_{-ja}$ では決め打ちで設定します。

```
204 \newdimen\Cht
205 \newdimen\Cdp
206 \newdimen\Cwd
207 \newdimen\Cvs
208 \newdimen\Chs
209 \setlength\Cht{0.88\zw}
210 \setlength\Cdp{0.12\zw}
211 \setlength\Cwd{1\zw}
212 \setlength\Cvs{\baselineskip}
213 \setlength\Chs{1\zw}
```

```
義なので、直接 \DeclareRobustCommand で定義します。
              214 \DeclareRobustCommand{\small}{%
              215 (*10pt)
              216
                   \@setfontsize\small\@ixpt{11}%
                   \abovedisplayskip 8.5\p@ \@plus3\p@ \@minus4\p@
              217
                   \above displays hortskip \z@ \@plus2\p@
              218
                   \belowdisplayshortskip 4\p@ \@plus2\p@ \@minus2\p@
              219
                   \def\@listi{\leftmargin\leftmargini
              220
              221
                              \topsep 4\p0 \plus2\p0 \plus2\p0
                              \parsep 2\p0 \plus\p0 \pminus\p0
              222
                              \itemsep \parsep}%
              223
              224 (/10pt)
              225 (*11pt)
              226
                   \@setfontsize\small\@xpt\@xiipt
                   \abovedisplayskip 10\p@ \@plus2\p@ \@minus5\p@
              227
                   \abovedisplayshortskip \z@ \@plus3\p@
              228
                   \belowdisplayshortskip 6\p@ \@plus3\p@ \@minus3\p@
              229
                   \def\@listi{\leftmargin\leftmargini
              230
                              \topsep 6\p0 \@plus2\p0 \@minus2\p0
              231
                              \parsep 3\p@ \@plus2\p@ \@minus\p@
              232
              233
                              \itemsep \parsep}%
              234 (/11pt)
              235 (*12pt)
              236
                   \@setfontsize\small\@xipt{13.6}%
                   237
                   \abovedisplayshortskip \z@ \@plus3\p@
              238
                   239
                   \def\@listi{\leftmargin\leftmargini
              240
                              topsep 9\\p@ \\plus3\\p@ \\eminus5\\p@
              241
                              \parsep 4.5\p0 \plus2\p0 \plus2\p0
              242
              243
                              \itemsep \parsep}%
              244 (/12pt)
                  \belowdisplayskip \abovedisplayskip}
\footnotesize \footnotesize コマンドの定義は、\normalsize に似ています。こちらも直接
             \DeclareRobustCommand で定義します。
              246 \DeclareRobustCommand{\footnotesize}{%
              247 (*10pt)
              248
                   \@setfontsize\footnotesize\@viiipt{9.5}%
                   \abovedisplayskip 6\p@ \@plus2\p@ \@minus4\p@
              249
                   \abovedisplayshortskip \z@ \@plus\p@
              250
                   \belowdisplayshortskip 3\p@ \@plus\p@ \@minus2\p@
              251
              252
                   \def\@listi{\leftmargin\leftmargini
                              \topsep 3\p@ \@plus\p@ \@minus\p@
              253
              254
                              \parsep 2\p@ \@plus\p@ \@minus\p@
              255
                              \itemsep \parsep}%
              256 (/10pt)
              257 (*11pt)
                   \@setfontsize\footnotesize\@ixpt{11}%
              258
                   \abovedisplayskip 8\p@ \@plus2\p@ \@minus4\p@
              259
              260
                   \abovedisplayshortskip \z@ \@plus\p@
              261
                   \belowdisplayshortskip 4\p@ \@plus2\p@ \@minus2\p@
```

\small \small コマンドの定義は、\normalsize に似ています。こちらはカーネルで未定

```
\def\@listi{\leftmargin\leftmargini
                       262
                                                      \topsep 4\\p@ \end{plus2}\\p@ \end{plus2}\\p@
                       263
                                                      \parsep 2\p@ \@plus\p@ \@minus\p@
                       264
                                                      \itemsep \parsep}%
                       265
                       266 (/11pt)
                       267 (*12pt)
                                \@setfontsize\footnotesize\@xpt\@xiipt
                                \abovedisplayskip 10\p@ \@plus2\p@ \@minus5\p@
                       269
                                270
                                \belowdisplayshortskip 6\p@ \@plus3\p@ \@minus3\p@
                       271
                                \def\@listi{\leftmargin\leftmargini
                       272
                                                      273
                                                      \parsep 3\p0 \plus2\p0 \plus2\p0
                       274
                                                      \itemsep \parsep}%
                       275
                       276 (/12pt)
                                \belowdisplayskip \abovedisplayskip}
\scriptsize これらは先ほどのマクロよりも簡単です。これらはフォントサイズを変更するだ
          \tiny けで、リスト環境とディスプレイ数式のパラメータは変更しません。
         \large 278 (*10pt)
                       279 \DeclareRobustCommand{\scriptsize}{\@setfontsize\scriptsize\@viipt\@viiipt}
         \Large
                       \LARGE
                      281 \DeclareRobustCommand{\large}{\@setfontsize\large\@xiipt{17}}
                      282 \DeclareRobustCommand{\Large}{\Osetfontsize\Large\Oxivpt{21}}
          \huge
                       \Huge
                       284 \DeclareRobustCommand{\huge}{\@setfontsize\huge\@xxpt{28}}
                       285 \DeclareRobustCommand{\Huge}{\Qsetfontsize\Huge\Qxxvpt{33}}
                       286 (/10pt)
                       287 (*11pt)
                       288 \DeclareRobustCommand{\scriptsize}{\@setfontsize\scriptsize\@viiipt{9.5}}
                       289 \DeclareRobustCommand{\tiny}{\@setfontsize\tiny\@vipt\@viipt}
                       290 \DeclareRobustCommand{\large}{\@setfontsize\large\@xiipt{17}}
                       291 \DeclareRobustCommand{\Large}{\Osetfontsize\Large\Oxivpt{21}}
                       293 \DeclareRobustCommand{\huge}{\@setfontsize\huge\@xxpt{28}}
                       294 \DeclareRobustCommand{\Huge}{\@setfontsize\Huge\@xxvpt{33}}
                       295 (/11pt)
                       296 (*12pt)
                       297 \DeclareRobustCommand{\scriptsize}{\@setfontsize\scriptsize\@viiipt{9.5}}
                       299 \DeclareRobustCommand{\large}{\@setfontsize\large\@xivpt{21}}
                       300 \DeclareRobustCommand{\Large}{\@setfontsize\Large\@xviipt{25}}
                       301 \label{large} \label{largee} \label{large
                       302 \end{areRobustCommand{\huge}{\Qsetfontsize\huge\Qxxvpt{33}}}
                       303 \let\Huge=\huge
                       304 (/12pt)
                       305 (/10pt | 11pt | 12pt)
```

4 レイアウト

4.1 用紙サイズの決定

\columnsep \columnsep は、二段組のときの、左右(あるいは上下)の段間の幅です。このス \columnseprule ペースの中央に \columnseprule の幅の罫線が引かれます。

```
306 (*article | report | book)
```

307 \if@stysize

308 (tate) \setlength\columnsep{3\Cwd}

309 (yoko) \setlength\columnsep{2\Cwd}

 $310 \ensuremath{\setminus} \texttt{else}$

311 \setlength\columnsep{10\p0}

312 \fi

313 \setlength\columnseprule{ $0\p0$ }

\pagewidth [XHATEX-ja] 出力の PDF の用紙サイズをここで設定しておきます。tombow が真 \pageheight のときは 2 インチ足しておきます。

\stockwidth $[X_{\Xi}]$ 2022-11-06 $[AT_{E}]$ 2ε 2022-11-01 で カーネルに \stockwidth、\stockheight \stockheight が追加されたので、クラスファイル側では未定義のときのみこれらの長さ変数を定義します。

314 \iftombow

315 \ifdefined\stockwidth\else\newlength{\stockwidth}\fi

316 \ifdefined\stockheight\else\newlength{\stockheight}\fi

317 \setlength{\stockwidth}{\paperwidth}

318 \setlength{\stockheight}{\paperheight}

319 \advance \stockwidth 2in

320 \advance \stockheight 2in

323 **\else**

324 \setlength{\pdfpagewidth}{\paperwidth}

325 \setlength{\pdfpageheight}{\paperheight}

326 \fi

4.2 段落の形

\lineskip これらの値は、行が近付き過ぎたときの TFX の動作を制御します。

 $\verb|\normallineskip| 327 \textbf{\normallineskip} | 1 \neq 0$

328 \setlength\normallineskip{1\p0}

\baselinestretch これは、\baselineskip の倍率を示すために使います。デフォルトでは、何もしません。このコマンドが "empty" でない場合、\baselineskip の指定の plus やminus 部分は無視されることに注意してください。

 $329 \mbox{ } \mbox{\ensuremath{\mbox{\sc linestretch}}{\fill}$

\parskip \parskip は段落間に挿入される、縦方向の追加スペースです。\parindent は段 \parindent 落の先頭の字下げ幅です。

 $330 \ensuremath{\texttt{0p@ \ensuremath{\texttt{plus p@}}}}$

331 \setlength\parindent $\{1\Cwd\}$

\smallskipamount これら 3 つのパラメータの値は、 \mbox{IMT}_{EX} カーネルの中で設定されています。こ\medskipamount れらはおそらく、サイズオプションの指定によって変えるべきです。しかし、\bigskipamount \mbox{IMT}_{EX} 2.09 や \mbox{IMT}_{EX} 2_{ε} の以前のリリースの両方との互換性を保つために、これらはまだ同じ値としています。

332 $*10pt \mid 11pt \mid 12pt \rangle$ 333 \setlength\smallskipamount{3\p@ \@plus 1\p@ \@minus 1\p@} 334 \setlength\medskipamount{6\p@ \@plus 2\p@ \@minus 2\p@} 335 \setlength\bigskipamount{12\p@ \@plus 4\p@ \@minus 4\p@}

\@lowpenalty \nopagebreak と \nolinebreak コマンドは、これらのコマンドが置かれた場所 \@medpenalty に、ペナルティを起いて、分割を制御します。置かれるペナルティは、コマンドの \@highpenalty 引数によって、\@lowpenalty, \@medpenalty, \@highpenalty のいずれかが使わ

337 \@lowpenalty 51 338 \@medpenalty 151 339 \@highpenalty 301 340 \/article|report|book\

れます。

336 (/10pt | 11pt | 12pt)

4.3 ページレイアウト

4.3.1 縦方向のスペース

\headheight \headheight は、ヘッダが入るボックスの高さです。\headsep は、ヘッダの下端 \headsep と本文領域との間の距離です。\topskip は、本文領域の上端と1行目のテキスト \topskip のベースラインとの距離です。

```
341 (*10pt | 11pt | 12pt)
342 \setlength\headheight{12\p0}
343 (*tate)
344 \if@stysize
345
     \ifnum\c@@paper=2 % A5
346
         \setlength\headsep{6mm}
      \else % A4, B4, B5 and other
347
         \setlength\headsep{8mm}
348
349
     \fi
350 \else
         \setlength\headsep{8mm}
351
352 \fi
353 (/tate)
354 (*voko)
355 \langle !bk \rangle \setlength \headsep{25p0}
356 (10pt & bk)\setlength\headsep{.25in}
357 \langle 11pt \& bk \rangle \setminus setlength \setminus headsep \{.275in\}
358 (12pt & bk)\setlength\headsep{.275in}
359 (/yoko)
360 \setlength\topskip{1\Cht}
```

\footskip \footskip は、本文領域の下端とフッタの下端との距離です。フッタのボックス の高さを示す、\footheight は削除されました。

```
361 \langle tate \rangle \setlength \footskip \{14mm\} \\ 362 \langle *yoko \rangle \\ 363 \langle !bk \rangle \setlength \footskip \{30 \p0\} \\ 364 \langle 10pt \& bk \rangle \setlength \footskip \{.35in\} \\ 365 \langle 11pt \& bk \rangle \setlength \footskip \{.38in\} \\ 366 \langle 12pt \& bk \rangle \setlength \footskip \{30 \p0\} \\ 367 \langle /yoko \rangle
```

\maxdepth T_{EX} のプリミティブレジスタ \maxdepth は、\topskip と同じような働きをします。 \@maxdepth レジスタは、つねに \maxdepth のコピーでなくてはいけません。これは \begin{document} の内部で設定されます。 T_{EX} と $I_{F}T_{EX}$ 2.09 では、 \maxdepth は 4pt に固定です。 $I_{F}T_{EX}$ 2 $_{\varepsilon}$ では、\maxdepth+\topskip を基本サイズの 1.5 倍にしたいので、\maxdepth を \topskip の半分の値で設定します。

```
368 \if@compatibility
369 \setlength\maxdepth{4\p@}
370 \else
371 \setlength\maxdepth{.5\topskip}
372 \fi
```

4.3.2 本文領域

\textheight と \textwidth は、本文領域の通常の高さと幅を示します。縦組でも横組でも、"高さ"は行数を、"幅"は字詰めを意味します。後ほど、これらの長さに \topskip の値が加えられます。

\textwidth 基本組の字詰めです。

互換モードの場合:

373 \if@compatibility

互換モード:a4jやb5jのクラスオプションが指定された場合の設定:

```
374
    \if@stysize
375
       \ifnum\c@@paper=2 % A5
376
         \if@landscape
377 (10pt & yoko)
                      \sting 1 + 1 = 1 
378 (11pt & yoko)
                      \setlength\textwidth{42\Cwd}
379 (12pt & yoko)
                      \stingth\textwidth{40\Cwd}
380 (10pt & tate)
                      \stilength\textwidth{27\Cwd}
381 (11pt & tate)
                      \setlength\textwidth{25\Cwd}
                      \stin Cwd
382 (12pt & tate)
         \else
383
384 (10pt & yoko)
                      \setlength\textwidth{28\Cwd}
385 (11pt & yoko)
                      386 (12pt & yoko)
                      \setlength\textwidth{24\Cwd}
387 (10pt & tate)
                      \stingth\textwidth{46\Cwd}
388 (11pt & tate)
                      \setlength\textwidth{42\Cwd}
389 (12pt & tate)
                      \setlength\textwidth{38\Cwd}
390
         \fi
       \else\ifnum\c@@paper=3 % B4
391
         \if@landscape
392
393 (10pt & yoko)
                      \setlength\textwidth{75\Cwd}
```

```
394 (11pt & yoko)
                         \setlength\textwidth{69\Cwd}
395 (12pt & yoko)
                         \setlength\textwidth{63\Cwd}
396 (10pt & tate)
                         \setlength\textwidth{53\Cwd}
397 (11pt & tate)
                        \setlength\textwidth{49\Cwd}
                         \setlength\textwidth{44\Cwd}
398 (12pt & tate)
          \else
400 (10pt & yoko)
                         \setlength\textwidth{60\Cwd}
401 (11pt & yoko)
                         \setlength\textwidth{55\Cwd}
402 (12pt & yoko)
                         \setlength\textwidth{50\Cwd}
                         \stingth\textwidth{85\Cwd}
403 (10pt & tate)
404 \langle 11pt \& tate \rangle
                        \stingth\textwidth{76\Cwd}
405 (12pt & tate)
                        \stingth\textwidth{69\Cwd}
406
          \fi
407
        \else\ifnum\c@@paper=4 % B5
408
          \if@landscape
409 (10pt & yoko)
                         \setlength\textwidth{60\Cwd}
410 (11pt & yoko)
                         \setlength\textwidth{55\Cwd}
411 (12pt & yoko)
                         \setlength\textwidth{50\Cwd}
412 (10pt & tate)
                         \setlength\textwidth{34\Cwd}
413 (11pt & tate)
                         \setlength\textwidth{31\Cwd}
414 (12pt & tate)
                         \stingth\textwidth{28\Cwd}
415
          \else
416 (10pt & yoko)
                         \stilength\textwidth{37\Cwd}
417 (11pt & yoko)
                         \setlength\textwidth{34\Cwd}
418 (12pt & yoko)
                         \setlength\textwidth{31\Cwd}
419 (10pt & tate)
                         \setlength\textwidth{55\Cwd}
420 (11pt & tate)
                         \setlength\textwidth{51\Cwd}
421 (12pt & tate)
                        \stingth\textwidth{47\Cwd}
422
          \fi
423
        \else % A4 ant other
          \if@landscape
424
425 (10pt & yoko)
                         \stingth\textwidth{73\Cwd}
426 (11pt & yoko)
                         \setlength\textwidth{68\Cwd}
427 (12pt & yoko)
                         \setlength\textwidth{61\Cwd}
428 (10pt & tate)
                         \setlength\textwidth{41\Cwd}
429 (11pt & tate)
                         \setlength\textwidth{38\Cwd}
430 (12pt & tate)
                         \setlength\textwidth{35\Cwd}
          \else
432 (10pt & yoko)
                         \sting 1 + 1 = 1 
433 (11pt & yoko)
                         \setlength\textwidth{43\Cwd}
                         \stingth\textwidth{40\Cwd}
434 (12pt & yoko)
435 (10pt & tate)
                         \stingth\textwidth{67\Cwd}
436 (11pt & tate)
                        \setlength\textwidth{61\Cwd}
                        \stingth\textwidth{57\Cwd}
437 (12pt & tate)
438
          \fi
439
        \fi\fi\fi
440
      \else
互換モード:デフォルト設定
        \if@twocolumn
441
          \setlength\textwidth{52\Cwd}
442
443
        \else
444 (10pt&!bk & yoko)
                           \setlength\textwidth{327\p0}
445 (11pt&!bk & yoko)
                           \setlength\textwidth{342\p0}
```

```
446 (12pt&!bk & yoko)
                          \stingth\textwidth{372\p0}
447 (10pt & bk & yoko)
                          \setlength\textwidth{4.3in}
448 (11pt & bk & yoko)
                          \setlength\textwidth{4.8in}
449 (12pt & bk & yoko)
                          \setlength\textwidth{4.8in}
450 (10pt & tate)
                     \stingth\textwidth{67\Cwd}
451 (11pt & tate)
                     \setlength\textwidth{61\Cwd}
452 (12pt & tate)
                     \setlength\textwidth{57\Cwd}
453
        \fi
     \fi
454
2e モードの場合:
455 \ensuremath{\setminus} else
2e モード: a4j や b5j のクラスオプションが指定された場合の設定:二段組では
用紙サイズの8割、一段組では用紙サイズの7割を版面の幅として設定します。
456
     \if@stysize
457
        \if@twocolumn
458 (yoko)
               \setlength\textwidth{.8\paperwidth}
               \setlength\textwidth{.8\paperheight}
459 (tate)
460
        \else
461 (yoko)
               \setlength\textwidth{.7\paperwidth}
462 \langle tate \rangle
               \setlength\textwidth{.7\paperheight}
463
     \else
464
2e モード: デフォルト設定
465 (tate)
             \setlength\@tempdima{\paperheight}
             \setlength\@tempdima{\paperwidth}
466 (yoko)
        \addtolength\@tempdima{-2in}
467
468 (tate)
             \addtolength\@tempdima{-1.3in}
469 (yoko & 10pt)
                   \setlength\@tempdimb{327\p@}
470 (yoko & 11pt)
                   \setlength\@tempdimb{342\p0}
471 (yoko & 12pt)
                   \sting 100 \
472 (tate & 10pt)
                   \stingth\@tempdimb{67\Cwd}
                   \stingth\@tempdimb{61\Cwd}
473 (tate & 11pt)
474 (tate & 12pt)
                   \stingth\@tempdimb{57\Cwd}
475
        \if@twocolumn
476
          \ifdim\@tempdima>2\@tempdimb\relax
477
            \setlength\textwidth{2\@tempdimb}
478
          \else
479
            \setlength\textwidth{\@tempdima}
          \fi
480
        \else
481
482
          \ifdim\@tempdima>\@tempdimb\relax
            \setlength\textwidth{\@tempdimb}
483
          \else
484
            \setlength\textwidth{\@tempdima}
485
          \fi
486
487
        \fi
488
     \fi
489 \fi
490 \@settopoint\textwidth
```

\textheight 基本組の行数です。

互換モードの場合:

491 \if@compatibility

```
互換モード:a4jやb5jのクラスオプションが指定された場合の設定:
```

```
492
           \if@stysize
493
                \ifnum\c@@paper=2 % A5
494
                    \if@landscape
495 (10pt & yoko)
                                                  \stingth\textheight{17\Cvs}
496 (11pt & yoko)
                                                  \stin The constant of the co
497 (12pt & yoko)
                                                  \setlength\textheight{16\Cvs}
498 (10pt & tate)
                                                  \setlength\textheight{26\Cvs}
499 (11pt & tate)
                                                  \setlength\textheight{26\Cvs}
500 (12pt & tate)
                                                  \setlength\textheight{25\Cvs}
                    \else
502 (10pt & yoko)
                                                  \stin 28\cvs
503 (11pt & yoko)
                                                  \stingth\textheight{25\Cvs}
504 (12pt & yoko)
                                                  \stin Setlength \textheight \{24\Cvs\}
505 (10pt & tate)
                                                  \stin Setlength \textheight \{16\Cvs\}
                                                  \stin The thick the ight {16\Cvs}
506 (11pt & tate)
507 (12pt & tate)
                                                  \stin Setlength \textheight \{15\Cvs\}
508
509
                \else\ifnum\c@@paper=3 % B4
510
                    \if@landscape
511 (10pt & yoko)
                                                  \stingth\textheight{38\Cvs}
512 (11pt & yoko)
                                                   \setlength\textheight{36\Cvs}
513 (12pt & yoko)
                                                  \stingth\textheight{34\Cvs}
514 (10pt & tate)
                                                  \setlength\textheight{48\Cvs}
515 (11pt & tate)
                                                  \stilength\textheight{48\Cvs}
516 \langle 12pt \& tate \rangle
                                                  \stin Setlength \textheight \{45\Cvs\}
517
                    \else
518 (10pt & yoko)
                                                  \stingth\textheight{57\Cvs}
519 (11pt & yoko)
                                                  \stingth\textheight{55\Cvs}
520 (12pt & yoko)
                                                  \stingth\textheight{52\Cvs}
521 (10pt & tate)
                                                  \setlength\textheight{33\Cvs}
522 (11pt & tate)
                                                  \setlength\textheight{33\Cvs}
523 (12pt & tate)
                                                 \stingth\textheight{31\Cvs}
524
                    \fi
                \else\ifnum\c@@paper=4 % B5
525
                    \if@landscape
526
527 (10pt & yoko)
                                                  \verb|\setlength| textheight{22\Cvs}|
528 (11pt & yoko)
                                                  \stin \mathcal{L}_{21\Cvs}
529 (12pt & yoko)
                                                   \setlength\textheight{20\Cvs}
530 (10pt & tate)
                                                  \setlength\textheight{34\Cvs}
531 (11pt & tate)
                                                  \setlength\textheight{34\Cvs}
532 (12pt & tate)
                                                  \setlength\textheight{32\Cvs}
                    \else
534 (10pt & yoko)
                                                  \stingth\textheight{35\Cvs}
535 (11pt & yoko)
                                                  \setlength\textheight{34\Cvs}
                                                  \stingth\textheight{32\Cvs}
536 (12pt & yoko)
537 (10pt & tate)
                                                  \stin Setlength \textheight \{21\Cvs\}
538 (11pt & tate)
                                                  \setlength\textheight{21\Cvs}
539 (12pt & tate)
                                                  \stin Setlength \textheight \{20\Cvs\}
                    \fi
540
541
                \else % A4 and other
```

```
\if@landscape
542
543 (10pt & yoko)
                        \setlength\textheight{27\Cvs}
544 (11pt & yoko)
                        \setlength\textheight{26\Cvs}
545 (12pt & yoko)
                        \setlength\textheight{25\Cvs}
546 (10pt & tate)
                       \setlength\textheight{41\Cvs}
547 (11pt & tate)
                       \setlength\textheight{41\Cvs}
548 (12pt & tate)
                       \setlength\textheight{38\Cvs}
          \else
549
550 (10pt & yoko)
                        \setlength\textheight{43\Cvs}
                        \stingth\textheight{42\Cvs}
551 (11pt & yoko)
552 (12pt & yoko)
                        \setlength\textheight{39\Cvs}
553 (10pt & tate)
                       \stin Setlength \textheight \{26\Cvs\}
554 (11pt & tate)
                       \setlength\textheight{26\Cvs}
555 (12pt & tate)
                       \setlength\textheight{22\Cvs}
556
          \fi
557
        \fi\fi\fi
             \addtolength\textheight{\topskip}
558 (yoko)
559 (bk & yoko)
                  \addtolength\textheight{\baselineskip}
560 (tate)
             \addtolength\textheight{\Cht}
561 (tate)
             \addtolength\textheight{\Cdp}
互換モード:デフォルト設定
     \else
563 (10pt&!bk & yoko)
                     \setlength\textheight{578\p0}
564 (10pt & bk & yoko)
                      \setlength\textheight{554\p0}
565 (11pt & yoko)
                 \stingth\textheight{580.4\p@}
566 (12pt & yoko)
                 \setlength\textheight{586.5\p0}
567 (10pt & tate)
                 \setlength\textheight{26\Cvs}
568 (11pt & tate)
                 \setlength\textheight{25\Cvs}
569 (12pt & tate)
                 \setlength\textheight{24\Cvs}
570
     \fi
2e モードの場合:
571 \else
2e モード:a4; や b5; のクラスオプションが指定された場合の設定: 縦組
では用紙サイズの 70%(book) か 78%(ariticle,report)、横組では 70%(book) か
75%(article,report)を版面の高さに設定します。
     \if@stysize
573 (tate & bk)
                 \setlength\textheight{.75\paperwidth}
574 (tate&!bk)
                 \setlength\textheight{.78\paperwidth}
                 \setlength\textheight{.70\paperheight}
575 (yoko & bk)
576 (yoko&!bk)
                 \setlength\textheight{.75\paperheight}
2e モード:デフォルト値
     \else
577
             \setlength\@tempdima{\paperwidth}
578 (tate)
             \verb|\setlength|@tempdima{\paperheight}|
579 (yoko)
        \addtolength\@tempdima{-2in}
580
581 (yoko)
             \addtolength\@tempdima{-1.5in}
582
        \divide\@tempdima\baselineskip
583
        \@tempcnta\@tempdima
        \setlength\textheight{\@tempcnta\baselineskip}
584
585
     \fi
```

```
586 \fi
最後に、\textheightに \topskipの値を加えます。
587 \addtolength\textheight{\topskip}
588 \@settopoint\textheight
```

4.3.3 マージン

627

\else

\topmargin \topmargin は、"印字可能領域"—用紙の上端から1インチ内側— の上端からヘッダ部分の上端までの距離です。

```
2.09 互換モードの場合:
  589 \if@compatibility
  590 (*yoko)
  591
                  \if@stysize
  592
                         \setlength\topmargin{-.3in}
  593
  594 (!bk)
                                     \sting 100 \sting 10
  595 (10pt & bk)
                                                      \setlength\topmargin{.75in}
  596 (11pt & bk)
                                                       \setlength\topmargin{.73in}
                                                      \setlength\topmargin{.73in}
  597 (12pt & bk)
                  \fi
  598
  599 (/yoko)
  600 (*tate)
                  \if@stysize
  601
                         \ifnum\c@@paper=2 % A5
  602
  603
                               \setlength\topmargin{.8in}
  604
                         \else % A4, B4, B5 and other
  605
                               \setlength\topmargin{32mm}
  606
                         \fi
  607
                  \else
                         \setlength\topmargin{32mm}
  608
                   \fi
  609
                  \addtolength\topmargin{-1in}
  610
                   \verb|\addtolength| topmargin{-\headheight}|
  611
                   \addtolength\topmargin{-\headsep}
  612
 613 (/tate)
2e モードの場合:
  614 \else
                  \setlength\topmargin{\paperheight}
 615
                  \addtolength\topmargin{-\headheight}
  616
                  \addtolength\topmargin{-\headsep}
  618 (tate) \addtolength\topmargin{-\textwidth}
  619 (yoko) \addtolength\topmargin{-\textheight}
  620
                  \addtolength\topmargin{-\footskip}
                  \if@stysize
  621
                         \ifnum\c@@paper=2 % A5
  622
                               \addtolength\topmargin{-1.3in}
  623
  624
                         \else
                               \addtolength\topmargin{-2.0in}
  625
  626
                         \fi
```

```
628 (yoko)
                             \addtolength\topmargin{-2.0in}
                             \addtolength\topmargin{-2.8in}
                 629 (tate)
                 630
                      \fi
                 631
                      \addtolength\topmargin{-.5\topmargin}
                 632 \fi
                 633 \@settopoint\topmargin
 \marginparsep \marginparsep は、本文と傍注の間にあけるスペースの幅です。横組では本
\marginparpush 文の左(右)端と傍注、縦組では本文の下(上)端と傍注の間になります。
                \marginparpush は、傍注と傍注との間のスペースの幅です。
                 634 \if@twocolumn
                 635 \setlength\marginparsep{10\p0}
                 636 \else
                          \setlength\marginparsep{15\p0}
                 637 (tate)
                          \setlength\marginparsep{10\p0}
                 638 (yoko)
                 639 \fi
                 640 \langle tate \rangle \setminus setlength \setminus margin parpush \{7 \setminus p0\}
                 641 (*yoko)
                 642 (10pt)\setlength\marginparpush{5\p0}
                 643 (11pt)\setlength\marginparpush{5\p0}
                 644 \langle 12pt \rangle \setminus \{12pt\} \setminus \{7 \mid p0\}
                645 (/yoko)
\oddsidemargin まず、互換モードでの長さを示します。
\evensidemargin
                  互換モード、縦組の場合:
\marginparwidth 646 \if@compatibility
                            \setlength\oddsidemargin{0\p0}
                 647 (tate)
                648 (tate)
                            \strut = 10 p0
                互換モード、横組、book クラスの場合:
                 649 (*yoko)
                 650 (*bk)
                 651 (10pt)
                             \setlength\oddsidemargin
                                                        \{.5in\}
                652 (11pt)
                             \setlength\oddsidemargin
                                                        \{.25in\}
                 653 (12pt)
                             \setlength\oddsidemargin
                                                        \{.25in\}
                 654 (10pt)
                             \setlength\evensidemargin {1.5in}
                 655 (11pt)
                             \setlength\evensidemargin {1.25in}
                 656 (12pt)
                             \setlength\evensidemargin {1.25in}
                 657 (10pt)
                             \setlength\marginparwidth {.75in}
                 658 (11pt)
                             \setlength\marginparwidth {1in}
                 659 (12pt)
                             \setlength\marginparwidth {1in}
                 660 (/bk)
                互換モード、横組、report と article クラスの場合:
                 661 (*!bk)
                        \if@twoside
                 662
                 663 (10pt)
                               \setlength\oddsidemargin
                                                          {44\p@}
                 664 (11pt)
                               \setlength\oddsidemargin
                                                          {36\p@}
                 665 (12pt)
                               \setlength\oddsidemargin
                                                          {21\p@}
                 666 (10pt)
                               \setlength\evensidemargin
                                                          {82\p@}
                 667 (11pt)
                               \setlength\evensidemargin
                                                          {74\p@}
                 668 (12pt)
                               \setlength\evensidemargin {59\p0}
```

```
669 (10pt)
               \setlength\marginparwidth {107\p0}
670 (11pt)
               \setlength\marginparwidth {100\p0}
671 (12pt)
               \setlength\marginparwidth {85\p0}
        \else
672
              \setlength\oddsidemargin
                                          {60\p@}
673 (10pt)
674 (11pt)
              \setlength\oddsidemargin
                                          {54\p@}
675 (12pt)
              \setlength\oddsidemargin
                                          {39.5\p@}
676 (10pt)
              \setlength\evensidemargin
                                          {60\p@}
              \setlength\evensidemargin
677 (11pt)
                                          {54\p@}
              \setlength\evensidemargin
                                          {39.5\p@}
678 (12pt)
679 (10pt)
              \setlength\marginparwidth
                                          {90\p@}
                                          {83\p@}
680 (11pt)
              \setlength\marginparwidth
              \setlength\marginparwidth
                                          {68\p@}
681 (12pt)
682
      \fi
683 (/!bk)
互換モード、横組、二段組の場合:
      \if@twocolumn
684
685
         \setlength\oddsidemargin {30\p0}
686
         \setlength\evensidemargin {30\p@}
687
         \setlength\marginparwidth {48\p@}
      \fi
688
689 (/yoko)
縦組、横組にかかわらず、スタイルオプション設定ではゼロです。
      \if@stysize
690
691
        \if@twocolumn\else
692
          \setlength\oddsidemargin{0\p0}
693
          \setlength\evensidemargin{0\p0}
694
        \fi
695
      \fi
  互換モードでない場合:
      \setlength\@tempdima{\paperwidth}
           \addtolength\@tempdima{-\textheight}
699 (yoko)
           \addtolength\@tempdima{-\textwidth}
  \oddsidemargin を計算します。
      \if@twoside
700
701 (tate)
             \setlength\oddsidemargin{.6\@tempdima}
702 (yoko)
             \setlength\oddsidemargin{.4\@tempdima}
703
      \else
        \setlength\oddsidemargin{.5\@tempdima}
704
      \fi
705
     \addtolength\oddsidemargin{-1in}
706
\evensidemargin を計算します。
      \setlength\evensidemargin{\paperwidth}
707
      \addtolength\evensidemargin{-2in}
709 (tate)
          \addtolength\evensidemargin{-\textheight}
          \addtolength\evensidemargin{-\textwidth}
710 (yoko)
      \addtolength\evensidemargin{-\oddsidemargin}
711
      \@settopoint\oddsidemargin % 1999.1.6
712
     \@settopoint\evensidemargin
```

\marginparwidth を計算します。ここで、\@tempdima の値は、 \paperwidth - \textwidthです。

```
714 (*yoko)
     \if@twoside
715
       \setlength\marginparwidth{.6\@tempdima}
716
       \addtolength\marginparwidth\{-.4in\}
717
     \else
718
719
       \setlength\marginparwidth{.5\@tempdima}
720
       \addtolength\marginparwidth{-.4in}
721
     \ifdim \marginparwidth >2in
722
       \setlength\marginparwidth{2in}
723
724 \fi
725 (/yoko)
 縦組の場合は、少し複雑です。
726 (*tate)
727
     \setlength\@tempdima{\paperheight}
728
     \addtolength\@tempdima{-\textwidth}
     \addtolength\@tempdima{-\topmargin}
729
     \verb|\addtolength|@tempdima{-\headheight}|
730
     \addtolength\@tempdima{-\headsep}
731
     \addtolength\@tempdima{-\footskip}
732
     \setlength\marginparwidth{.5\@tempdima}
733
734 (/tate)
735 \@settopoint\marginparwidth
736 \fi
```

4.4 脚注

\footnotesep \footnotesep は、それぞれの脚注の先頭に置かれる"支柱"の高さです。このクラスでは、通常の \footnotesize の支柱と同じ長さですので、脚注間に余計な空白は入りません。

```
737 \langle 10pt \rangle \setlength \footnotesep \{6.65 \p0\} \footnotesep \{7.7 \p0\} \footnotesep \{7.7 \p0\} \footnotesep \{8.4 \p0\} \
```

\footins \skip\footins は、本文の最終行と最初の脚注との間の距離です。

4.5 **フロート**

すべてのフロートパラメータは、 \LaTeX のカーネルでデフォルトが定義されています。そのため、カウンタ以外のパラメータは \renewcommand で設定する必要があります。

4.5.1 フロートパラメータ

\floatsep フロートオブジェクトが本文のあるページに置かれるとき、フロートとそのペー \textfloatsep ジにある別のオブジェクトの距離は、これらのパラメータで制御されます。これ \intextsep らのパラメータは、一段組モードと二段組モードの段抜きでないフロートの両方 で使われます。

\floatsep は、ページ上部あるいは下部のフロート間の距離です。 \textfloatsep は、ページ上部あるいは下部のフロートと本文との距離です。 \intextsep は、本文の途中に出力されるフロートと本文との距離です。

743 (*10pt) 744 \setlength\floatsep {12\p@ \@plus 2\p@ \@minus 2\p@} 745 \setlength\textfloatsep{20\p@ \@plus 2\p@ \@minus $4\p$ @} 746 \setlength\intextsep $\{12\p0\ \p0\ 2\p0\ \p0\ 2\p0\}$ 747 (/10pt) 748 (*11pt) {12\p@ \@plus 2\p@ \@minus 2\p@} 749 \setlength\floatsep 750 \setlength\textfloatsep{20\p@ \@plus 2\p@ \@minus $4\p$ @} 752 (/11pt) 753 (*12pt) 754 \setlength\floatsep {12\p0 \0plus 2\p0 \0minus 4\p0} 755 \setlength\textfloatsep{20\p0 \@plus 2\p0 \@minus 4\p0} 756 \setlength\intextsep $\{14\p0\ \p0\ 4\p0\ \p0\ 4\p0\}$ 757 (/12pt)

\dblfloatsep 二段組モードで、\textwidth の幅を持つ、段抜きのフロートオブジェクトが本 \dbltextfloatsep 文と同じページに置かれるとき、本文とフロートとの距離は、\dblfloatsep と \dbltextfloatsep によって制御されます。

\dblfloatsep は、ページ上部あるいは下部のフロートと本文との距離です。 \dbltextfloatsep は、ページ上部あるいは下部のフロート間の距離です。

 $758 \langle *10pt \rangle$

759 \setlength\dblfloatsep $\{12\p0\ \p0\ 2\p0\ \p0\ 2\p0\}$

761 (/**10pt**)

762 (*11pt)

764 \setlength\dbltextfloatsep{20\p@ \@plus 2\p@ \@minus 4\p@}

765 (/11pt)

766 (*12pt)

767 \setlength\dblfloatsep $\{14\polinimes 2\polinimes 4\polinimes 4\polinimes$

768 \setlength\dbltextfloatsep{20\p@ \@plus 2\p@ \@minus $4\p0$ }

769 (/12pt)

\@fptop フロートオブジェクトが、独立したページに置かれるとき、このページのレイアウ

\Offsep トは、次のパラメータで制御されます。これらのパラメータは、一段組モードか、

\@fpbot 二段組モードでの一段出力のフロートオブジェクトに対して使われます。

ページ上部では、\@fptopの伸縮長が挿入されます。ページ下部では、\@fpbotの伸縮長が挿入されます。フロート間には\@fpsepが挿入されます。

```
なお、そのページを空白で満たすために、\@fptopと\@fpbotの少なくともど
               ちらか一方に、plus ...fil を含めてください。
                770 (*10pt)
                771 \setlength\@fptop\{0\p0\p0\p0\ \deltaplus 1fil}
                772 \setlength\Ofpsep{8\p0 \Oplus 2fil}
                773 \setlength\@fpbot{0\p@ \@plus 1fil}
                774 (/10pt)
                775 (*11pt)
                776 \setlength\@fptop{0\p@ \@plus 1fil}
                777 \setlength\@fpsep{8\p@ \@plus 2fil}
                778 \setlength\@fpbot{0\p@ \@plus 1fil}
                779 (/11pt)
                780 (*12pt)
                781 \setlength\@fptop{0\p@ \@plus 1fil}
                782 \setlength\@fpsep{10\p@ \@plus 2fil}
                783 \setlength\@fpbot{0\p@ \@plus 1fil}
                784 (/12pt)
    \@dblfptop 二段組モードでの二段抜きのフロートに対しては、これらのパラメータが使われ
    \@dblfpsep ます。
    \verb|\dblfpbot|| 785 \langle *10pt \rangle
                786 \setlength\@dblfptop\{0\polimits plus 1fil\}
                787 \setlength\@dblfpsep{8\p0\ensuremath{0} \pull 2fil}
                788 \setlength\@dblfpbot\{0\p0\ \p0\ 1fil\}
                789 (/10pt)
                790 (*11pt)
                791 \setlength\@dblfptop\{0\p0\p0\p0\ \@plus 1fil}
                792 \setlength\@dblfpsep{8\p0\ \p0\ 2fil}
                793 \setlength\@dblfpbot\{0\p0\ \p0\ 1fil\}
                794 \langle /11pt \rangle
               795 (*12pt)
                796 \setlength\@dblfptop\{0\polimits plus 1fil\}
                797 \setlength\@dblfpsep{10\p@ \@plus 2fil}
                798 \setlength\@dblfpbot\{0\p0\ \p0\ 1fil\}
                799 (/12pt)
                800 (/10pt | 11pt | 12pt)
               4.5.2 フロートオブジェクトの上限値
  \c@topnumber topnumberは、本文ページの上部に出力できるフロートの最大数です。
                801 (*article | report | book)
                802 \setcounter{topnumber}{2}
\c@bottomnumber bottomnumberは、本文ページの下部に出力できるフロートの最大数です。
                803 \setcounter{bottomnumber}{1}
\c@totalnumber totalnumberは、本文ページに出力できるフロートの最大数です。
                804 \setcounter{totalnumber}{3}
\c@dbltopnumber dbltopnumberは、二段組時における、本文ページの上部に出力できる段抜きのフ
               ロートの最大数です。
```

805 \setcounter{dbltopnumber}{2}

\topfraction これは、本文ページの上部に出力されるフロートが占有できる最大の割り合いで

806 \renewcommand{\topfraction}{.7}

\bottomfraction これは、本文ページの下部に出力されるフロートが占有できる最大の割り合いで

807 \renewcommand{\bottomfraction}{.3}

\textfraction これは、本文ページに最低限、入らなくてはならない本文の割り合いです。 808 \renewcommand{\textfraction}{.2}

\floatpagefraction これは、フロートだけのページで最低限、入らなくてはならないフロートの割り合 いです。

 $809 \verb| renewcommand{\floatpagefraction}{.5}|$

\dbltopfraction これは、2段組時における本文ページに、2段抜きのフロートが占めることができ る最大の割り合いです。

810 \renewcommand{\dbltopfraction}{.7}

\dblfloatpagefraction これは、2段組時におけるフロートだけのページに最低限、入らなくてはならない 2段抜きのフロートの割り合いです。

811 \renewcommand{\dblfloatpagefraction}{.5}

改ページ(日本語 TrX 開発コミュニティ版のみ)

\pltx@cleartorightpage \cleardoublepage 命令は、┗TFX カーネルでは「奇数ページになるまでページを \pltx@cleartoleftpage 繰る命令」として定義されています。しかし pIATFX カーネルでは、アスキーの方 \pltx@cleartooddpage 針により「横組では奇数ページになるまで、縦組では偶数ページになるまでページ \pltx@cleartoevenpage を繰る命令」に再定義されています。すなわち、pIATFX では縦組でも横組でも右 ページになるまでページを繰ることになります。

> pIATeX 標準クラスの book は、横組も縦組も openright がデフォルトになって いて、これは従来 pIATFX カーネルで定義された \cleardoublepage を利用してい ました。しかし、縦組で奇数ページ始まりの文書を作りたい場合もあるでしょう から、コミュニティ版クラスでは以下の(非ユーザ向け)命令を追加します。

- 1. \pltx@cleartorightpage:右ページになるまでページを繰る命令
- 2. \pltx@cleartoleftpage: 左ページになるまでページを繰る命令
- 3. \pltx@cleartooddpage: 奇数ページになるまでページを繰る命令
- 4. \pltx@cleartoevenpage:偶数ページになるまでページを繰る命令

```
\ifodd\c@page
                 813
                        \IfDirectionTateT{%
                 814
                          \hbox{}\thispagestyle{empty}\newpage
                 815
                          \if@twocolumn\hbox{}\newpage\fi
                 816
                        }%
                 817
                 818
                 819
                        \IfDirectionYokoT{%
                          \hbox{}\thispagestyle{empty}\newpage
                 820
                          \if@twocolumn\hbox{}\newpage\fi
                 821
                        }%
                 822
                      fi\fi
                 823
                 824 \def\pltx@cleartoleftpage{\clearpage\if@twoside
                      \ifodd\c@page
                 825
                        \IfDirectionYokoT{%
                 826
                          \hbox{}\thispagestyle{empty}\newpage
                 827
                          \if@twocolumn\hbox{}\newpage\fi
                 828
                 829
                        }%
                 830
                      \else
                 831
                        \IfDirectionTateT{%
                          \hbox{}\thispagestyle{empty}\newpage
                 832
                          \verb|\if@twocolumn\hbox{}\newpage\fi|
                 833
                        }%
                 834
                      fi\fi
                 835
                  \pltx@cleartooddpage は 卧下X の \cleardoublepage に似ていますが、上の
                2つに合わせるため \thispagestyle{empty} を追加してあります。
                 836 \def\pltx@cleartooddpage{\clearpage\if@twoside
                 837
                      \ifodd\c@page\else
                        \hbox{}\thispagestyle{empty}\newpage
                 838
                        \if@twocolumn\hbox{}\newpage\fi
                 839
                      \fi\fi}
                 840
                 841 \def\pltx@cleartoevenpage{\clearpage\if@twoside
                 842
                      \ifodd\c@page
                        \hbox{}\thispagestyle{empty}\newpage
                 843
                 844
                        \if@twocolumn\hbox{}\newpage\fi
                 845
                      \fi\fi}
\cleardoublepage そして report と book クラスの場合は、ユーザ向け命令である \cleardoublepage
                を、openright オプションが指定されている場合は \pltx@cleartorightpage に、
                openleft オプションが指定されている場合は \pltx@cleartoleftpage に、それ
                ぞれ \let します。openany の場合は pLATeX カーネルの定義のままです。
                 846 (*!article)
                 847 \if@openleft
                     \let\cleardoublepage\pltx@cleartoleftpage
                 849 \else\if@openright
                 850 \let\cleardoublepage\pltx@cleartorightpage
                 851 \fi\fi
                 852 (/!article)
```

812 \def\pltx@cleartorightpage{\clearpage\if@twoside

6 ページスタイル

p \LaTeX 2_{ε} では、つぎの 6 種類のページスタイルを使用できます。emptyは ltpage.dtx で定義されています。

empty ヘッダにもフッタにも出力しない

plain フッタにページ番号のみを出力する

headnombre ヘッダにページ番号のみを出力する footnombre フッタにページ番号のみを出力する

headings ヘッダに見出しとページ番号を出力する

bothstyle ヘッダに見出し、フッタにページ番号を出力する

ページスタイル fooは、\ps@foo コマンドとして定義されます。

\@evenhead これらは \ps@... から呼び出され、ヘッダとフッタを出力するマクロです。

\@oddhead \@oddhead 奇数ページのヘッダを出力

\@evenfoot \@oddfoot 奇数ページのフッタを出力

\@oddfoot \@evenhead 偶数ページのヘッダを出力

\@evenfoot 偶数ページのフッタを出力

これらの内容は、横組の場合は \textwidth の幅を持つ \hbox に入れられ、縦組の場合は \textheight の幅を持つ \hbox に入れられます。

6.1 マークについて

ヘッダに入る章番号や章見出しは、見出しコマンドで実行されるマークコマンドで決定されます。ここでは、実行されるマークコマンドの定義を行なっています。これらのマークコマンドは、 T_EX の \mark 機能を用いて、'left' と 'right' の 2 種類のマークを生成するように定義しています。

 $\mbox{markboth}{\langle LEFT \rangle}{\langle RIGHT \rangle}$: 両方のマークに追加します。

\markright{ $\langle RIGHT \rangle$ }: '右' マークに追加します。

\leftmark: \@oddhead, \@oddfoot, \@evenhead, \@evenfoot マクロで使われ、現在の"左"マークを出力します。\leftmark は T_EX の \botmark コマンドのような働きをします。初期値は空でなくてはいけません。

\rightmark: \@oddhead, \@oddfoot, \@evenhead, \@evenfoot マクロで使われ、現在の "右" マークを出力します。\rightmark は T_EX の \firstmark コマンドのような働きをします。初期値は空でなくてはいけません。

マークコマンドの動作は、左マークの'範囲内の'右マークのために合理的になっています。たとえば、左マークは \chapter コマンドによって変更されます。そして右マークは \section コマンドによって変更されます。しかし、同一ページに複数の \markboth コマンドが現れたとき、おかしな結果となることがあります。

\tableofcontents のようなコマンドは、\@mkboth コマンドを用いて、あるページスタイルの中でマークを設定しなくてはなりません。\@mkboth は、

\ps@... コマンドによって、\markboth(ヘッダを設定する)か、\@gobbletwo (何もしない) に \let されます。

6.2 plain ページスタイル

\ps@plain jpl@in に \let するために、ここで定義をします。

- 853 \def\ps@plain{\let\@mkboth\@gobbletwo
- 854 \let\ps@jpl@in\ps@plain
- 855 \let\@oddhead\@empty
- 856 \def\@oddfoot{\reset@font\hfil\thepage\hfil}%
- 857 \let\@evenhead\@empty
- 858 \let\@evenfoot\@oddfoot}

6.3 jpl@in ページスタイル

\ps@jpl@in *jpl@in* スタイルは、クラスファイル内部で使用するものです。 I₄TEX では、book クラスを headingsとしています。しかし、\tableofcontents コマンドの内部では plain として設定されるため、一つの文書でのページ番号の位置が上下に出力されることになります。

そこで、pIFTEX 2ε では、\tableof contents や\the index のページスタイルを jpl@in にし、実際に出力される形式は、ほかのページスタイルで \let をしています。したがって、headingsのとき、目次ページのページ番号はヘッダ位置に出力され、plain のときには、フッタ位置に出力されます。

ここで、定義をしているのは、その初期値です。

859 \let\ps@jpl@in\ps@plain

6.4 headnombre ページスタイル

\ps@headnombre headnombreスタイルは、ヘッダにページ番号のみを出力します。

- $860 \label{lem:condition} 860 \label{lem:condition} $$ \align{center} $860 \label{lem:condition} $$ \align{ce$
- 861 \let\ps@jpl@in\ps@headnombre
- 862 $\langle yoko \rangle \ \def\@evenhead{\thepage\hfil}%$
- 863 $\langle yoko \rangle \ \def\@oddhead{\hfil\thepage} \%$
- 864 $\langle tate \rangle \ \def \ensuremath{\mathchar`e} \$
- 865 (tate) \def\@oddhead{\thepage\hfil}%
- 866 \let\@oddfoot\@empty\let\@evenfoot\@empty}

6.5 footnombre ページスタイル

\ps@footnombre footnombreスタイルは、フッタにページ番号のみを出力します。

- $867 \ensuremath{\tt Mkboth} \ensuremath{\tt Mgobbletwo}$
- 868 \let\ps@jpl@in\ps@footnombre
- 869 (yoko) \def\@evenfoot{\thepage\hfil}%
- 870 (yoko) \def\@oddfoot{\hfil\thepage}%
- 872 (tate) \def\@oddfoot{\thepage\hfil}%
- 873 \let\@oddhead\@empty\let\@evenhead\@empty}

6.6 headings スタイル

917 (book)

\if@mainmatter

headingsスタイルは、ヘッダに見出しとページ番号を出力します。

```
\ps@headings このスタイルは、両面印刷と片面印刷とで形式が異なります。
                                                   874 \if@twoside
                                                横組の場合は、奇数ページが右に、偶数ページが左にきます。縦組の場合は、奇数
                                                ページが左に、偶数ページが右にきます。
                                                                      \def\ps@headings{\let\ps@jpl@in\ps@headnombre
                                                                              \let\@oddfoot\@empty\let\@evenfoot\@empty
                                                   876
                                                   877 (yoko)
                                                                                                  \def\@evenhead{\thepage\hfil\leftmark}%
                                                                                                  \def\@oddhead{{\rightmark}\hfil\thepage}%
                                                   878 (yoko)
                                                                                                \label{leftmark} $$ \end{{\leftmark} \hfil\thepage} % $$ \hfil\th
                                                   879 (tate)
                                                                                                \def\@oddhead{\thepage\hfil\rightmark}%
                                                   880 (tate)
                                                                              \let\@mkboth\markboth
                                                   881
                                                   882 (*article)
                                                   883
                                                                              \def\sectionmark##1{\markboth{%
                                                   884
                                                                                          \ifnum \c@secnumdepth >\z@ \thesection.\hskip1\zw\fi
                                                   885
                                                                                          ##1}{}}%
                                                   886
                                                                              \def\subsectionmark##1{\markright{%
                                                   887
                                                                                          \ifnum \c@secnumdepth >\@ne \thesubsection.\hskip1\zw\fi
                                                   888
                                                                                          ##1}}%
                                                   889 (/article)
                                                   890 (*report | book)
                                                                       \def\chaptermark##1{\markboth{%
                                                   891
                                                                                  \ifnum \c@secnumdepth >\m@ne
                                                   892
                                                   893 (book)
                                                                                                              \if@mainmatter
                                                                                                 \@chapapp\thechapter\@chappos\hskip1\zw
                                                   894
                                                   895 (book)
                                                   896
                                                                                   \fi
                                                   897
                                                                                  ##1}{}}%
                                                   898
                                                                       \def\sectionmark##1{\markright{%
                                                   899
                                                                                  \ \coloredge \colore
                                                                                 ##1}}%
                                                   900
                                                   901 (/report | book)
                                                   902
                                                片面印刷の場合:
                                                   903 \else % if not twoside
                                                                      \def\ps@headings{\let\ps@jpl@in\ps@headnombre
                                                   904
                                                                              \let\@oddfoot\@empty
                                                   905
                                                   906 (voko)
                                                                                                  \def\@oddhead{{\rightmark}\hfil\thepage}%
                                                   907 (tate)
                                                                                                \def\@oddhead{\thepage\hfil\rightmark}%
                                                   908
                                                                              \let\@mkboth\markboth
                                                   909 (*article)
                                                   910
                                                                      \def\sectionmark##1{\markright{%
                                                   911
                                                                                  \ifnum \c@secnumdepth >\m@ne \thesection.\hskip1\zw\fi
                                                   912
                                                                                  ##1}}%
                                                   913 \langle / \text{article} \rangle
                                                   914 (*report | book)
                                                   915 \def\chaptermark##1{\markright{%
                                                                       \ifnum \c@secnumdepth >\m@ne
```

```
918 \@chapap\thechapter\@chappos\hskip1\zw 919 \langle book \rangle \fi 920 \fi 921 ##1}}% 922 \langle report \mid book \rangle 923 } 924 \fi
```

6.7 bothstyle スタイル

\ps@bothstyle bothstyleスタイルは、ヘッダに見出しを、フッタにページ番号を出力します。 このスタイルは、両面印刷と片面印刷とで形式が異なります。

```
925 \ \text{if@twoside}
             \def\ps@bothstyle{\let\ps@jpl@in\ps@footnombre
926
927 (*yoko)
                     \def\@evenhead{\leftmark\hfil}% right page
928
                     \def\@evenfoot{\thepage\hfil}% right page
929
                     \def\@oddhead{\hfil\rightmark}% left page
930
                     \def\@oddfoot{\hfil\thepage}% left page
931
932 (/yoko)
933 (*tate)
934
                     \def\@evenhead{\hfil\leftmark}% right page
935
                     \def\@evenfoot{\hfil\thepage}% right page
936
                     \def\@oddhead{\rightmark\hfil}% left page
937
                     \def\@oddfoot{\thepage\hfil}% left page
938 (/tate)
              \let\@mkboth\markboth
939
940 \langle *article \rangle
               \def\sectionmark##1{\markboth{%
941
                        \ifnum \c@secnumdepth >\z@ \thesection.\hskip1\zw\fi
942
                       ##1}{}}%
943
               \def\subsectionmark##1{\markright{%
944
                        \ifnum \c@secnumdepth >\@ne \thesubsection.\hskip1\zw\fi
945
946
                       ##1}}%
947 (/article)
948 (*report | book)
949 \def\chaptermark##1{\markboth{%
950
                        \ifnum \c@secnumdepth >\m@ne
951 (book)
                                            \if@mainmatter
                                   \@chapapp\thechapter\@chappos\hskip1\zw
952
953 (book)
954
                       ##1}{}}%
955
956
               \def\sectionmark##1{\markright{%
957
                       \ \coloredge \colore
958
                       ##1}}%
959 (/report | book)
960
961 \else % if one column
             \def\ps@bothstyle{\let\ps@jpl@in\ps@footnombre
                                   \def\@oddhead{\hfil\rightmark}%
963 (yoko)
964 (yoko)
                                   \def\@oddfoot{\hfil\thepage}%
```

```
965 (tate)
             \def\@oddhead{\rightmark\hfil}%
             \def\@oddfoot{\thepage\hfil}%
966 (tate)
        \let\@mkboth\markboth
967
968 (*article)
     \def\sectionmark##1{\markright{%
969
         \ifnum \c@secnumdepth >\m@ne \thesection.\hskip1\zw\fi
970
         ##1}}%
972 (/article)
973 (*report | book)
     \def\chaptermark##1{\markright{%
974
         \ifnum \c@secnumdepth >\m@ne
975
                 \if@mainmatter
976 (book)
             \@chapapp\thechapter\@chappos\hskip1\zw
977
978 (book)
979
         fi
980
         ##1}}%
981 (/report | book)
982
     }
983 \fi
```

6.8 myheading スタイル

\ps@myheadings myheadingsページスタイルは簡潔に定義されています。ユーザがページスタイル を設計するときのヒナ型として使用することができます。

```
984 \def\ps@myheadings{\let\ps@jpl@in\ps@plain%
985 \let\@oddfoot\@empty\let\@evenfoot\@empty
986 \yoko\ \def\@evenhead{\thepage\hfil\leftmark}%
987 \yoko\ \def\@oddhead{{\rightmark}\hfil\thepage}%
988 \tate\ \def\@evenhead{{\leftmark}\hfil\thepage}%
989 \tate\ \def\@oddhead{\thepage\hfil\rightmark}%
990 \let\@mkboth\@gobbletwo
991 \!article\ \let\chaptermark\@gobble
992 \let\sectionmark\@gobble
993 \article\ \let\subsectionmark\@gobble
994 }
```

7 文書コマンド

7.1 表題

\title 文書のタイトル、著者、日付の情報のための、これらの3つのコマンドは \author ltsect.dtx で提供されています。これらのコマンドは次のように定義されていま \date す。

```
995 %\DeclareRobustCommand*{\title}[1]{\gdef\@title{#1}}
996 %\DeclareRobustCommand*{\author}[1]{\gdef\@author{#1}}
997 %\DeclareRobustCommand*{\date}[1]{\gdef\@date{#1}}
\date マクロのデフォルトは、今日の日付です。
998 %\date{\today}
```

titlepage (env.) 通常の環境では、ページの最初と最後を除き、タイトルページ環境は何もしません。また、ページ番号の出力を抑制します。レポートスタイルでは、ページ番号を1にリセットし、そして最後で1に戻します。互換モードでは、ページ番号はゼロに設定されますが、右起こしページ用のページパラメータでは誤った結果になります。二段組スタイルでも一段組のページが作られます。

日本語 T_{EX} 開発コミュニティによる変更:上にあるのはアスキー版の説明です。 改めてアスキー版の挙動を整理すると、以下のようになります。

- 1. アスキー版では、タイトルページの番号を必ず1にリセットしていましたが、これは正しくありません。これは、タイトルページが奇数ページ目か偶数ページ目かにかかわらず、レイアウトだけ奇数ページ用が適用されてしまうからです。さらに、タイトルの次のページも偶数のページ番号を持ってしまうため、両面印刷で奇数ページと偶数ページが交互に出なくなるという問題もあります。
- 2. アスキー版 book クラスは、タイトルページを必ず \cleardoublepage で始めていました。pIFTEX カーネルでの \cleardoublepage の定義から、縦組の既定ではタイトルが偶数ページ目に出ることになります。これ自体が正しくないと断定することはできませんが、タイトルのページ番号を1にリセットすることと合わさって、偶数ページに送ったタイトルに奇数ページ用レイアウトが適用されてしまうという結果は正しくありません。

そこで、コミュニティ版ではタイトルのレイアウトが必ず奇数ページ用になるという挙動を支持し、book クラスではタイトルページを奇数ページ目に送ることにしました。これでタイトルページが表紙らしく見えるようになります。また、report クラスのようなタイトルが成り行きに従って出る場合には

- ・ 奇数ページ目に出る場合、ページ番号を1(奇数)にリセット
- ・ 偶数ページ目に出る場合、ページ番号を 0 (偶数) にリセット

としました。

一つめの例を考えます。

\documentclass{tbook}
\title{タイトル}\author{著者}
\begin{document}
\maketitle
\chapter{チャプター}
\end{document}

アスキー版 tbook クラスでの結果は

1ページ目:空白(ページ番号1は非表示)

2ページ目:タイトル(奇数レイアウト、ページ番号1は非表示)

3ページ目:チャプター(偶数レイアウト、ページ番号2)

```
ですが、仮に最初の空白ページさえなければ
```

1ページ目:タイトルすなわち表紙(奇数レイアウト、ページ番号 1 は非表示) 2ページ目:チャプター(偶数レイアウト、ページ番号 2)

とみなせるため、コミュニティ版では空白ページを発生させないようにしました。 二つめの例を考えます。

\documentclass{tbook}
\title{タイトル}\author{著者}
\begin{document}
テスト文章
\maketitle
\chapter{チャプター}
\end{document}

アスキー版 tbook クラスでの結果は

1ページ目:テスト文章(奇数レイアウト、ページ番号1) 2ページ目:タイトル(奇数レイアウト、ページ番号1は非表示) 3ページ目:チャプター(偶数レイアウト、ページ番号2)

ですが、これでは奇数と偶数のページ番号が交互になっていないので正しくあり ません。そこで、コミュニティ版では

1ページ目:テスト文章(奇数レイアウト、ページ番号1)

2ページ目:空白ページ(ページ番号2は非表示)

3ページ目:タイトル(奇数レイアウト、ページ番号1は非表示)

4ページ目:チャプター(偶数レイアウト、ページ番号2)

と直しました。

なお、pIATeX 2.09 互換モードはアスキー版のまま、すなわち「ページ番号をゼロに設定」としてあります。これは、横組の右起こしの挙動としては誤りですが、縦組の右起こしの挙動としては一応正しくなっているといえます。

最初に互換モードの定義を作ります。

```
999 \if@compatibility
1000 \newenvironment{titlepage}
1001
       {%
              \cleardoublepage
1002 (book)
         \if@twocolumn\@restonecoltrue\onecolumn
1003
1004
         \else\@restonecolfalse\newpage\fi
         \thispagestyle{empty}%
1005
         \setcounter{page}\z@
1006
       }%
1007
1008
        {\if@restonecol\twocolumn\else\newpage\fi
  そして、LATeX ネイティブのための定義です。
1010 \else
1011 \newenvironment{titlepage}
1012
       ₹%
               \pltx@cleartooddpage %% 2017/02/15
1013 (book)
         \if@twocolumn
1014
```

```
\@restonecoltrue\onecolumn
         1015
                  \else
         1016
                   \@restonecolfalse\newpage
         1017
         1018
                  \fi
         1019
                  \thispagestyle{empty}%
         1020
                  \ifodd\c@page\setcounter{page}\@ne\else\setcounter{page}\z@\fi %% 2017/02/15
         1021
                {\if@restonecol\twocolumn \else \newpage \fi
         1022
         両面モードでなければ、タイトルページの直後のページのページ番号も1にしま
         す。
         1023
                 \if@twoside\else
                   \verb|\setcounter{page}| @ ne \\
         1024
         1025
         1026
         1027 \fi
\maketitle このコマンドは、表題を作成し、出力します。表題ページを独立させるかどうかに
         よって定義が異なります。report と book クラスのデフォルトは独立した表題で
         す。article クラスはオプションで独立させることができます。
 \p@thanks 縦組のときは、\thanks コマンドを \p@thanks に \let します。このコマンドは
         \footnotetext を使わず、直接、文字を \@thanks に格納していきます。
           著者名の脇に表示される合印は直立した数字、注釈側は横に寝た数字となって
         いましたが、不自然なので \hbox{\yoko ...} を追加し、両方とも直立するよう
         にしました。
         1028 \def\p@thanks#1{\footnotemark
              \protected@xdef\@thanks{\@thanks
         1030
                \protect{\noindent\xltjc@yoko@hbox{$\m@th^\thefootnote$}#1\protect\par}}}
         1031 \if@titlepage
              \newcommand{\maketitle}{\begin{titlepage}%
         1033
              \let\footnotesize\small
         1034
              \let\footnoterule\relax
         \let\footnote\thanks
         1036
         1037 (tate) \xltjc@tate@vbox@to@ht{\textheight}{\hsize\textwidth
              \null\vfil
         1038
              \vskip 60\p@
         1039
              \begin{center}%
         1040
         1041
                {\LARGE \@title \par}%
         1042
                \vskip 3em%
         1043
                {\Large
                 \lineskip .75em%
         1044
                 \begin{tabular}[t]{c}%
         1045
         1046
                   \@author
         1047
                  \end{tabular}\par}%
         1048
                  \vskip 1.5em%
                {\large \@date \par}%
                                        % Set date in \large size.
              \end{center}\par
```

1051 1051 tate \vfil\\centering\\@thanks\\vfil\\null

```
1052 (tate) }%
1053 (yoko) \@thanks\vfil\null
     \end{titlepage}%
footnoteカウンタをリセットし、\thanks と \maketitle コマンドを無効にし、い
くつかの内部マクロを空にして格納領域を節約します。
1055
     \setcounter{footnote}{0}%
     \global\let\thanks\relax
1056
     \global\let\maketitle\relax
1057
     \global\let\p@thanks\relax
1058
     \global\let\@thanks\@empty
1059
1060
     \global\let\@author\@empty
1061
     \global\let\@date\@empty
     \global\let\@title\@empty
タイトルが組版されたら、\title コマンドなどの宣言を無効にできます。\and の
定義は、\author の引数でのみ使用しますので、破棄します。
     \global\let\title\relax
1063
     \global\let\author\relax
1064
     \global\let\date\relax
1065
     \global\let\and\relax
1066
1067
     ጉ%
1068 \else
1069
     \newcommand{\maketitle}{\par
1070
     \begingroup
1071
       \renewcommand{\thefootnote}{\fnsymbol{footnote}}%
1072
       \def\@makefnmark{\hbox{\IfDirectionYokoTF{$\m@th^{\@thefnmark}$
1073
         }{\xltjc@yoko@hbox{$\m@th^{\@thefnmark}$}}}}%
1074 (*tate)
       \long\def\@makefntext##1{\parindent 1\zw\noindent
1075
          \hb@xt@ 2\zw{\hss\@makefnmark}##1}%
1076
1077 (/tate)
1078 (*voko)
        \long\def\@makefntext##1{\parindent 1em\noindent
1079
          \hb@xt@1.8em{\hss$\m@th^{\chefnmark}$}##1}%
1080
1081 (/yoko)
       \if@twocolumn
1082
1083
         \ifnum \col@number=\@ne \@maketitle
1084
         \else \twocolumn[\@maketitle]%
         \fi
1085
1086
       \else
1087
         \newpage
         \global\@topnum\z@
                             % Prevents figures from going at top of page.
1088
         \@maketitle
1089
1090
        \thispagestyle{jpl@in}\@thanks
ここでグループを閉じ、footnoteカウンタをリセットし、\thanks, \maketitle,
\@maketitle を無効にし、いくつかの内部マクロを空にして格納領域を節約しま
す。
1092
     \endgroup
     \setcounter{footnote}{0}%
1094
     \global\let\thanks\relax
```

```
\global\let\maketitle\relax
            1095
                  \global\let\@maketitle\relax
            1096
                  \global\let\p@thanks\relax
            1097
                  \global\let\@thanks\@empty
            1098
            1099
                  \global\let\@author\@empty
                  \global\let\@date\@empty
                  \global\let\@title\@empty
            1102
                  \global\let\title\relax
            1103
                  \global\let\author\relax
            1104
                  \global\let\date\relax
                  \global\let\and\relax
            1105
            1106
                  }
\@maketitle 独立した表題ページを作らない場合の、表題の出力形式です。
            1107
                  \def\@maketitle{%
            1108
                  \newpage\null
            1109
                  \vskip 2em%
                  \begin{center}%
            1110
            1111 (yoko) \let\footnote\thanks
            1112 \langle tate \rangle \let\footnote\p@thanks
                    {\LARGE \@title \par}%
            1113
                    \vskip 1.5em%
            1114
            1115
                    {\large
                      \lineskip .5em%
            1116
            1117
                      \begin{tabular}[t]{c}%
            1118
                        \@author
            1119
                      \end{tabular}\par}%
            1120
                    \vskip 1em%
                    {\large \@date}%
            1121
            1122
                  \end{center}%
                  \par\vskip 1.5em}
            1123
            1124 \fi
            7.2 概要
```

abstract (env.) 要約文のための環境です。book クラスでは使えません。report スタイルと、titlepage オプションを指定した article スタイルでは、独立したページに出力されます。

```
1125 (*article | report)
1126 \if@titlepage
       \newenvironment{abstract}{%
1127
1128
            \titlepage
1129
            \null\vfil
            \@beginparpenalty\@lowpenalty
1130
            \begin{center}%
1131
1132
              {\bfseries\abstractname}%
1133
              \ensuremath{\texttt{Qendparpenalty}}\ensuremath{\texttt{QM}}
1134
            \end{center}}%
            {\par\vfil\null\endtitlepage}
1135
1136 \else
      \newenvironment{abstract}{%
1137
         \if@twocolumn
1138
```

```
\section*{\abstractname}%
1139
        \else
1140
           \small
1141
           \begin{center}%
1142
             {\bfseries\abstractname\vspace{-.5em}\vspace{\z0}}\%
1143
           \end{center}%
1144
           \quotation
1145
1146
        fi{\if@twocolumn\else\endquotation\fi}
1147 \fi
1148 (/article | report)
```

7.3 章見出し

7.3.1 マークコマンド

```
\chaptermark \...mark コマンドを初期化します。これらのコマンドはページスタイルの定義で
    \sectionmark 使われます(第6節参照)。これらのたいていのコマンドは ltsect.dtx ですでに
  \subsectionmark 定義されています。
\subsubsectionmark 1149 \(\rangle\) \newcommand*{\chaptermark}[1]{}
   \verb|\subparagraphmark| 1152 \% | label{label} $$ 1152 \% | label{label} $$ 1152 \% | label{label} $$
               1153 %\newcommand*{\paragraphmark}[1]{}
               1154 %\newcommand*{\subparagraphmark}[1]{}
```

7.3.2 カウンタの定義

```
\c@secnumdepth secnumdepthには、番号を付ける、見出しコマンドのレベルを設定します。
          1155 (article)\setcounter{secnumdepth}{3}
          1156 (!article)\setcounter{secnumdepth}{2}
  \c@chapter これらのカウンタは見出し番号に使われます。最初の引数は、二番目の引数が増
  \c@section 加するたびにリセットされます。二番目のカウンタはすでに定義されているもの
```

```
\c@subsection でなくてはいけません。
\c@subsubsection 1157 \newcounter{part}
      \label{eq:cont} $$ \c@paragraph $$ 1158 \ensuremath{\ \ } hook \mid report $$ \\ 1159 \ensuremath{\ \ } howcounter\{chapter\} $$
```

 $\verb|\c@subparagraph||_{1160} \verb|\newcounter{section}|[chapter]|$

1161 (/book | report)

1162 (article) \newcounter{section} 1163 \newcounter{subsection} [section] 1164 \newcounter{subsubsection} [subsection] 1165 \newcounter{paragraph} [subsubsection] 1166 \newcounter{subparagraph} [paragraph]

\thepart \theCTR が実際に出力される形式の定義です。

\arabic{COUNTER} は、COUNTERの値を算用数字で出力します。 \thechapter

\roman{COUNTER} は、COUNTERの値を小文字のローマ数字で出力します。 \thesection \Roman{COUNTER} は、COUNTERの値を大文字のローマ数字で出力します。 \thesubsection

\thesubsubsection

\theparagraph \thesubparagraph

39

```
す。
                        Alph\{COUNTER\} は、COUNTERの値を 1 = A, 2 = B のようにして出力しま
                    す。
                        \Kanji{COUNTER} は、COUNTERの値を漢数字で出力します。
                        には、何も影響しません。
                    1167 (*tate)
                    1168 \renewcommand{\thepart}{\rensuji{\@Roman\c@part}}
                    1169 \langle article \rangle \ensuremath{\thesection} {\normalign{ \color="block" \color="b
                    1170 (*report | book)
                    1171 \renewcommand{\thechapter}{\rensuji{\Qarabic\cQchapter}}
                   1173 (/report | book)
                   1174 \renewcommand{\thesubsection}{\thesection}} \rensuji{\Qarabic\cQsubsection}}
                   1175 \renewcommand{\thesubsubsection}{%
                                 \thesubsection{} · \rensuji{\@arabic\c@subsubsection}}
                   1176
                   1177 \renewcommand{\theparagraph}{%
                                 \thesubsubsection{} · \rensuji{\@arabic\c@paragraph}}
                   1179 \renewcommand{\thesubparagraph}{%
                                 \theparagraph{} • \rensuji{\@arabic\c@subparagraph}}
                    1181 (/tate)
                   1182 (*yoko)
                   1183 \renewcommand{\thepart}{\@Roman\c@part}
                   1185 (*report | book)
                   1186 \renewcommand{\thechapter}{\@arabic\c@chapter}
                   1187 \renewcommand{\thesection}{\thechapter.\@arabic\c@section}
                   1188 (/report | book)
                   1189 \renewcommand{\the subsection} {\the section. \Qarabic \cQsubsection}
                   1190 \renewcommand{\thesubsubsection}{%
                                  \thesubsection.\@arabic\c@subsubsection}
                   1192 \renewcommand{\theparagraph}{%
                   1193
                                  \thesubsubsection.\@arabic\c@paragraph}
                   1194 \renewcommand{\thesubparagraph}{%
                                  \theparagraph.\@arabic\c@subparagraph}
                   1195
                   1196 (/yoko)
\@chapapp \@chapapp の初期値は '\prechaptername' です。
                       \@chappos の初期値は '\postchaptername' です。
\@chappos
                        \appendix コマンドは \@chapapp を '\appendixname' に、\@chappos を空に再
                   定義します。
                   1197 (*report | book)
                    1198 \newcommand{\@chapapp}{\prechaptername}
                    1199 \newcommand{\@chappos}{\postchaptername}
                   1200 \langle /\text{report} \mid \text{book} \rangle
```

 $\alph{COUNTER}$ は、COUNTERの値を 1=a, 2=b のようにして出力しま

7.3.3 前付け、本文、後付け

\frontmatter 一冊の本は論理的に3つに分割されます。表題や目次や「はじめに」あるいは権利 \mainmatter などの前付け、そして本文、それから用語集や索引や奥付けなどの後付けです。

\backmatter

日本語 T_{EX} 開発コミュニティによる補足: I_{FTEX} の classes.dtx は、1996/05/26 (v1.3r) と 1998/05/05 (v1.3y) の計 2 回、\frontmatter と \mainmatter の定義を修正しています。一回目はこれらの命令を openany オプションに応じて切り替え、二回目はそれを元に戻しています。アスキーによる jclasses.dtx は、1997/01/15 に一回目の修正に追随しましたが、二回目の修正には追随していません。コミュニティ版では、一旦はアスキーによる仕様を維持しようと考えました (2016/11/22) が、以下の理由により二回目の修正にも追随することにしました (2017/03/05)。

アスキー版での \frontmatter と \mainmatter の改ページ挙動は

openright なら \cleardoublepage、openany なら \clearpage を実行

というものでした。しかし、\frontmatter 及び \mainmatter はノンブルを1 に リセットしますから、改ページの結果が偶数ページ目になる場合 にノンブルが偶 奇逆転してしまいました。このままでは openany の場合に両面印刷がうまくいか ないため、新しいコミュニティ版では

必ず \pltx@cleartooddpage を実行

としました。これは両面印刷 (twoside) の場合は奇数ページに送り、片面印刷 (oneside) の場合は単に改ページとなります。(参考:latex/2754)

1201 (*book)

 $1202 \ensuremath{ \mbox{\command} \{\mbox{\command} \ensuremath{ \mbox{\command} \mbox{\command} \}} \ensuremath{ \mbox{\command} \mbox{\command} \mbox{\command} \}} \ensuremath{ \mbox{\comma$

1203 \pltx@cleartooddpage

1204 \@mainmatterfalse\pagenumbering{roman}}

1205 \newcommand{\mainmatter}{%

1206 \pltx@cleartooddpage

1207 \@mainmattertrue\pagenumbering{arabic}}

1208 \newcommand{\backmatter}{%

1209 \if@openleft \cleardoublepage \else

1210 \if@openright \cleardoublepage \else \clearpage \fi \fi

1211 \@mainmatterfalse}

1212 (/book)

7.3.4 ボックスの組み立て

クラスファイル定義の、この部分では、\@startsection と \secdef の二つの内部マクロを使います。これらの構文を次に示します。

\@startsection マクロは6つの引数と1つのオプション引数 '*' を取ります。 \@startsection $\langle name \rangle \langle level \rangle \langle indent \rangle \langle beforeskip \rangle \langle afterskip \rangle \langle style \rangle$ optional * [$\langle altheading \rangle$] $\langle heading \rangle$

¹縦 tbook のデフォルト (openright) が該当するほか、横 jbook と縦 tbook の openany のときには成り行き次第で該当する可能性があります。

それぞれの引数の意味は、次のとおりです。

〈name〉レベルコマンドの名前です(例:section)。

 $\langle level \rangle$ 見出しの深さを示す数値です(chapter=1, section=2, ...)。" $\langle level \rangle <=$ カウンタ secnumdepth の値"のとき、見出し番号が出力されます。

〈indent〉見出しに対する、左マージンからのインデント量です。

〈**beforeskip**〉見出しの上に置かれる空白の絶対値です。負の場合は、見出しに続くテキストのインデントを抑制します。

〈afterskip〉正のとき、見出しの後の垂直方向のスペースとなります。負の場合は、見出しの後の水平方向のスペースとなります。

〈style〉見出しのスタイルを設定するコマンドです。

(*) 見出し番号を付けないとき、対応するカウンタは増加します。

〈heading〉新しい見出しの文字列です。

見出しコマンドは通常、\@startsection と 6 つの引数で定義されています。 \secdef マクロは、見出しコマンドを \@startsection を用いないで定義する ときに使います。このマクロは、2 つの引数を持ちます。

 $\scalebox{secdef}\langle unstarcmds\rangle\langle starcmds\rangle$

〈unstarcmds〉 見出しコマンドの普通の形式で使われます。

 $\langle starcmds \rangle *$ 形式の見出しコマンドで使われます。

\secdef は次のようにして使うことができます。

7.3.5 part レベル

\part このコマンドは、新しいパート(部)をはじめます。

article クラスの場合は、簡単です。

新しい段落を開始し、小さな空白を入れ、段落後のインデントを行い、\secdef で作成します。(アスキーによる元のドキュメントには「段落後のインデントをしないようにし」と書かれていましたが、実際のコードでは段落後のインデントを行っていました。そこで日本語 TeX 開発コミュニティは、ドキュメントをコードに合わせて「段落後のインデントを行い」へと修正しました。)

 $1213 \langle *article \rangle$

1214 \newcommand{\part}{%

1215 \if@noskipsec \leavevmode \fi

```
\par\addvspace{4ex}%
      1216
           \@afterindenttrue
      1217
           \secdef\@part\@spart}
      1218
      1219 (/article)
      report と book スタイルの場合は、少し複雑です。
       まず、右ページからはじまるように改ページをします。そして、部扉のページス
      タイルを emptyにします。2段組の場合でも、1段組で作成しますが、後ほど2
      段組に戻すために、\@restonecol スイッチを使います。
      1220 \langle *report \mid book \rangle
      1221 \newcommand{\part}{%
           \if@openleft \cleardoublepage \else
      1222
           \if@openright \cleardoublepage \else \clearpage \fi \fi
      1223
      1224
           \thispagestyle{empty}%
           1225
           \null\vfil
      1226
      1227
           \secdef\@part\@spart}
      1228 (/report | book)
\@part このマクロが実際に部レベルの見出しを作成します。このマクロも文書クラスに
      よって定義が異なります。
       article クラスの場合は、secnumdepth が -1 よりも大きいとき、見出し番号を付
      けます。このカウンタが -1 以下の場合には付けません。
      1229 (*article)
      1230 \def\@part[#1]#2{%
      1231
           \ifnum \c@secnumdepth >\m@ne
             \refstepcounter{part}%
      1232
      1233
             \addcontentsline{toc}{part}{%
      1234
               1235
           \else
      1236
             \addcontentsline{toc}{part}{#1}%
      1237
           \fi
           \markboth{}{}%
      1238
           {\parindent\z@\raggedright
      1239
            \interlinepenalty\@M\normalfont
      1240
      1241
            \ifnum \c@secnumdepth >\m@ne
              \Large\bfseries\prepartname\thepart\postpartname
      1242
              \par\nobreak
      1243
      1244
      1245
            \huge\bfseries#2\par}%
           \nobreak\vskip3ex\@afterheading}
      1246
      1247 \langle / article \rangle
       report と book クラスの場合は、secnumdepth が -2 よりも大きいときに、見出
      し番号を付けます。-2以下では付けません。
      1248 (*report | book)
      1249 \def\@part[#1]#2{%
      1250
           \ifnum \c@secnumdepth >-2\relax
      1251
             \refstepcounter{part}%
             \verb|\| add contents line{toc}{part}{%} \\
      1252
```

\prepartname\thepart\postpartname\hspace{1em}#1}%

1253

```
\else
         1254
                \addcontentsline{toc}{part}{#1}%
         1255
              \fi
         1256
              \markboth{}{}%
         1257
         1258
              {\centering
               \interlinepenalty\@M\normalfont
         1259
               \ifnum \c@secnumdepth >-2\relax
         1260
         1261
                 \huge\bfseries\prepartname\thepart\postpartname
         1262
                 \par\vskip20\p0
         1263
               \fi
               \Huge\bfseries#2\par}%
         1264
         1265
               \@endpart}
         1266 (/report | book)
 \@spart このマクロは、番号を付けないときの体裁です。
         1267 (*article)
         1268 \def\@spart#1{{%
         1269
              \parindent\z@\raggedright
         1270
              \interlinepenalty\@M\normalfont
         1271
              \huge\bfseries#1\par}%
         1272
              \nobreak\vskip3ex\@afterheading}
         1273 (/article)
         1274 (*report | book)
         1275 \def\@spart#1{{%
         1276
              \centering
              \interlinepenalty\@M\normalfont
         1277
              \Huge\bfseries#1\par}%
         1278
         1279
              \@endpart}
         1280 (/report | book)
\@endpart \@part と \@spart の最後で実行されるマクロです。両面印刷モードのときは、白
         ページを追加します。二段組モードのときには、これ以降のページを二段組に
         戻します。2016年12月から、openanyのときに白ページを追加するのをやめま
         した。このバグは LATeX では classes.dtx v1.4b (2000/05/19) で修正されていまし
         た。(参考: latex/3155、texjporg/jsclasses#48)
         1281 (*report | book)
         \if@twoside
         1283
                \if@openleft %% \if@openleft added (2017/02/15)
         1284
         1285
                 \null\thispagestyle{empty}\newpage
                \else\if@openright %% \if@openright added (2016/12/18)
         1286
                 \null\thispagestyle{empty}\newpage
         1287
         1288
                \fi\fi \% added (2016/12/18, 2017/02/15)
         1289
         二段組文書のとき、スイッチを二段組モードに戻す必要があります。
               \if@tempswa\twocolumn\fi}
         1291 (/report | book)
```

7.3.6 chapter レベル

chapter 章レベルは、必ずページの先頭から開始します。openright オプションが指定されている場合は、右ページからはじまるように \cleardoublepage を呼び出します。そうでなければ、\clearpage を呼び出します。なお、縦組の場合でも右ページからはじまるように、フォーマットファイルで \clerdoublepage が定義されています。

日本語 T_{EX} 開発コミュニティによる補足:コミュニティ版の実装では、openright \aleph openleft の場合に \cleardoublepage をクラスファイルの中で再々定義しています。5 を参照してください。

章見出しが出力されるページのスタイルは、jpl@in になります。jpl@in は、headnombleか footnombleのいずれかです。詳細は、第6節を参照してください。

また、\@topnum をゼロにして、章見出しの上にトップフロートが置かれないようにしています。

\@chapter このマクロは、章見出しに番号を付けるときに呼び出されます。secnumdepth が -1 よりも大きく、\@mainmatter が真 (book クラスの場合) のときに、番号を出力します。

日本語 T_{EX} 開発コミュニティによる補足:本家 LATEX の classes では、二段組のときチャプタータイトルは一段組に戻されますが、アスキーによる jclasses では二段組のままにされています。したがって、チャプタータイトルより高い位置に右カラムの始点が来るという挙動になっていますが、コミュニティ版でもアスキー版の挙動を維持しています。

```
1300 \def\@chapter[#1]#2{%
1301
       \ifnum \c@secnumdepth >\m@ne
                \if@mainmatter
1302 (book)
         \refstepcounter{chapter}%
1303
         \typeout{\@chapapp\space\thechapter\space\@chappos}%
1304
1305
         \addcontentsline{toc}{chapter}%
1306
            {\bf \{\protect\numberline \{\chapapp\thechapter\chapter\chappos\}\#1\}\%}
                \else\addcontentsline{toc}{chapter}{#1}\fi
1307 (book)
1308
       \else
         \addcontentsline{toc}{chapter}{#1}%
1309
1310
       \fi
1311
       \chaptermark{#1}%
       \label{local-protect} $$ \add to contents { lof } {\protect \add vspace { 10 \p0} } % $$
1312
       \label{local-protect} $$ \add to contents {lot}_{\protect} \add v space {10\p0}}% $$
1313
       \@makechapterhead{#2}\@afterheading}
1314
```

```
\@makechapterhead このマクロが実際に章見出しを組み立てます。
                 1315 \def\@makechapterhead#1{\hbox{}}\%
                      \vskip2\Cvs
                 1316
                 1317
                      {\operatorname{parindent}} z@
                 1318
                       \raggedright
                 1319
                       \verb|\normalfont\huge\bfseries||
                 1320
                       \leavevmode
                 1321
                       \ifnum \c@secnumdepth >\m@ne
                 1322
                         \setlength\@tempdima{\linewidth}%
                 1323 \langle \mathsf{book} \rangle
                             \if@mainmatter
                         1324
                         \addtolength\ensuremath{@tempdima{-\wd\z@}}%
                 1325
                         1326
                 1327 (book)
                             \fi
                         \vtop{\hsize\@tempdima#1}%
                 1328
                       \else
                 1329
                 1330
                         #1\relax
                       fi}\nobreak\vskip3\Cvs
                 1331
       \Oschapter このマクロは、章見出しに番号を付けないときに呼び出されます。
                   日本語 TeX 開発コミュニティによる補足:やはり二段組でチャプタータイトル
                 より高い位置に右カラムの始点が来るという挙動を維持してあります。
                 1332 \def\@schapter#1{%
                      \@makeschapterhead{#1}\@afterheading
                 1334 }
\@makeschapterhead 番号を付けない場合の形式です。
                 1335 \def\@makeschapterhead#1{\hbox{}%
                      \vskip2\Cvs
                 1336
                      {\parindent\z@
                 1337
                 1338
                       \raggedright
                 1339
                       \normalfont\huge\bfseries
                 1340
                       \leavevmode
                 1341
                       \setlength\@tempdima{\linewidth}%
                 1342
                       \displaystyle \vop{\hsize\@tempdima#1}}\vskip3\Cvs}
                 1343 (/report | book)
                 7.3.7 下位レベルの見出し
        \section 見出しの前後に空白を付け、\Large\bfseries で出力をします。
                 1344 \newcommand{\section}{\Qstartsection{section}{1}{\z0}\%
                       {1.5\Cvs \Qplus.5\Cvs \Qminus.2\Cvs}%
                 1345
                 1346
                       {.5\Cvs \@plus.3\Cvs}%
                       {\normalfont\Large\bfseries}}
                 1347
      \subsection 見出しの前後に空白を付け、\large\bfseries で出力をします。
                 1348 \newcommand{\subsection}{\Qstartsection{subsection}{2}{\zQ}%
                       {1.5\Cvs \Qplus.5\Cvs \Qminus.2\Cvs}%
                 1349
                       {.5\Cvs \Qplus.3\Cvs}%
                 1350
                       {\normalfont\large\bfseries}}
                 1351
```

```
\subsubsection 見出しの前後に空白を付け、\normalsize\bfseriesで出力をします。
```

- $1352 \end{subsubsection} {\tt 0startsection\{subsubsection\}{3}{\tt 20}\%}$
- 1353 {1.5\Cvs \@plus.5\Cvs \@minus.2\Cvs}%
- 1354 {.5\Cvs \@plus.3\Cvs}%
- 1355 {\normalfont\normalsize\bfseries}}

\paragraph 見出しの前に空白を付け、\normalsize\bfseries で出力をします。見出しの後ろで改行されません。

- 1356 \newcommand{\paragraph}{\Qstartsection{paragraph}{4}{\z0}%
- 1357 {3.25ex \@plus 1ex \@minus .2ex}%
- 1358 {-1em}%
- 1359 {\normalfont\normalsize\bfseries}}

\subparagraph 見出しの前に空白を付け、\normalsize\bfseries で出力をします。見出しの後ろで改行されません。

- 1360 \newcommand{\subparagraph}{\@startsection{subparagraph}{5}{\z@}%
- 1361 {3.25ex \@plus 1ex \@minus .2ex}%
- 1362 {-1em}%
- 1363 {\normalfont\normalsize\bfseries}}

7.3.8 付録

\appendix article クラスの場合、\appendix コマンドは次のことを行ないます。

- section と subsection カウンタをリセットする。
- ・ \thesection を英小文字で出力するように再定義する。
- 1364 (*article)
- 1365 \newcommand{\appendix}{\par
- 1366 \setcounter{section}{0}%
- 1367 \setcounter{subsection}{0}%
- $1369 \text{ yoko} \quad \text{renewcommand{} \text{thesection}{} \text{@Alph}c@section}}$
- 1370 (/article)

report と book クラスの場合、\appendix コマンドは次のことを行ないます。

- chapterと section カウンタをリセットする。
- ・ \@chapapp を \appendixname に設定する。
- ・ **\@chappos** を空にする。
- ・ \thechapter を英小文字で出力するように再定義する。
- 1371 (*report | book)
- 1372 \newcommand{\appendix}{\par
- 1373 \setcounter{chapter}{0}%
- 1374 \setcounter{section}{0}%
- 1375 \renewcommand{\@chapapp}{\appendixname}%

```
1376 \renewcommand{\@chappos}\space%  
1377 \(\data\) \renewcommand{\thechapter}{\rensuji{\@Alph\c@chapter}}\)  
1378 \(\data\) \renewcommand{\thechapter}{\@Alph\c@chapter}\}  
1379 \(\renort | book\)
```

7.4 リスト環境

ここではリスト環境について説明をしています。

リスト環境のデフォルトは次のように設定されます。

まず、\rigtmargin, \listparindent, \itemindent をゼロにします。そして、K番目のレベルのリストは \@listKで示されるマクロが呼び出されます。ここで 'K' は小文字のローマ数字で示されます。たとえば、3番目のレベルのリストとして \@listiii が呼び出されます。\@listKは \leftmarginを \leftmarginK に設定します。

```
\leftmargin 二段組モードのマージンは少しだけ小さく設定してあります。
 \leftmargini 1380 \if@twocolumn
\verb| \label{leftmarginii}| 1381 |
                   \setlength\leftmargini {2em}
              1382 \else
\leftmarginiii 1383
                   \setlength\leftmargini {2.5em}
\leftmarginiv 1384 \fi
 \leftmarginv 次の3つの値は、\labelsep とデフォルトラベル('(m)', 'vii.', 'M.')の幅の合計
\leftmarginvi よりも大きくしてあります。
              1385 \setlength\leftmarginii {2.2em}
              1386 \setlength\leftmarginiii {1.87em}
              1387 \setlength\leftmarginiv {1.7em}
              1388 \setminus if@twocolumn
                   \setlength\leftmarginv {.5em}
              1389
              1390 \setlength\leftmarginvi{.5em}
                    \setlength\leftmarginv {1em}
              1393
                   \setlength\leftmarginvi{1em}
              1394 \fi
```

\labelsep \labelsep はラベルとテキストの項目の間の距離です。\labelwidth はラベルの \labelwidth 幅です。

```
1395 \setlength \labelsep {.5em}
1396 \setlength \labelwidth{\leftmargini}
1397 \addtolength\labelwidth{-\labelsep}
```

\@beginparpenalty これらのペナルティは、リストや段落環境の前後に挿入されます。

```
1398 \@beginparpenalty -\@lowpenalty
1399 \@endparpenalty -\@lowpenalty
1400 \@itempenalty -\@lowpenalty
1401 \/article | report | book \>
```

```
\partopsep リスト環境の前に空行がある場合、\parskip と \topsep に \partopsep が加えら
                     れた値の縦方向の空白が取られます。
                     1402 (10pt) \end{tabular} 1402 (10pt) \end{tabular} 1402 (10pt) \end{tabular} 1402 (10pt) \end{tabular}
                     1403 \langle 11pt \rangle  \setlength\partopsep{3\p0 \@plus 1\p0 \@minus 1\p0}
                     \@listi \@listi は、\leftmargin, \parsep, \topsep, \itemsep などのトップレベルの
     \@listI 定義をします。この定義は、フォントサイズコマンドによって変更されます(たと
                     えば、\small の中では "小さい" リストパラメータになります)。
                         このため、\normalsize がすべてのパラメータを戻せるように、\@listI は
                     \@listi のコピーを保存するように定義されています。
                     1405 (*10pt | 11pt | 12pt)
                     1406 \def\@listi{\leftmargin\leftmargini
                     1407 (*10pt)
                                \parsep 4\p0 \@plus2\p0 \@minus\p0
                     1408
                                \topsep 8\p@ \@plus2\p@ \@minus4\p@
                                \itemsep4\p@ \@plus2\p@ \@minus\p@}
                     1411 (/10pt)
                     1412 (*11pt)
                               \parsep 4.5\p0 \plus2\p0 \plus2\p0
                     1413
                                \topsep 9\p@ \@plus3\p@ \@minus5\p@
                     1414
                                \itemsep4.5\p@ \@plus2\p@ \@minus\p@}
                     1415
                     1416 \langle /11pt \rangle
                     1417 (*12pt)
                                \parsep 5\p0 \plus 2.5\p0 \pl
                                \topsep 10\p@ \@plus4\p@ \@minus6\p@
                     1421 (/12pt)
                     1422 \left| it \right| 0 
                     ここで、パラメータを初期化しますが、厳密には必要ありません。
                     1423 \@listi
   \@listii 下位レベルのリスト環境のパラメータの設定です。これらは保存用のバージョン
  \@listiii を持たないことと、フォントサイズコマンドによって変更されないことに注意を
   \@listiv してください。言い換えれば、このクラスは、本文サイズが \normalsize で現れ
     \@listv るリストの入れ子についてだけ考えています。
   \@listvi 1424 \def\@listii{\leftmargin\leftmarginii
                     1425
                                \labelwidth\leftmarginii \advance\labelwidth-\labelsep
                     1426 (*10pt)
                                  \label{local_points} $$ \to 4\p0 \end{plus2p0 \end{plus2p0} } $$
                     1427
                                  \parsep 2\p0 \Oplus\p0 \Ominus\p0
                     1428
                     1429 (/10pt)
                     1430 (*11pt)
                                   \topsep 4.5\p0 \plus2\p0 \plus2\p0
                                  \parsep 2\p0 \@plus\p0 \@minus\p0
                     1433 (/11pt)
                     1434 (*12pt)
                     1435
                                  \label{localize} $$ \to p@ \end{center} $$ \sup_{0 \le 1 \le n} \end{center} $$
```

 $\parsep 2.5\p0 \plus\p0 \plus\p0$

1436

```
1437 \langle /12pt \rangle
                            \itemsep\parsep}
1438
1439 \ensuremath{\mbox{\sc leftmargin}}\ensuremath{\mbox{\sc leftmargin}}\ensuremath}\ensuremath{\mbox{\sc leftmargin}}\ensuremath{\mbox{\sc
                            \labelwidth\leftmarginiii \advance\labelwidth-\labelsep
                                                  \topsep 2\p0 \@plus\p0\@minus\p0
1441 (10pt)
1442 (11pt)
                                                  \topsep 2\p0 \@plus\p0\@minus\p0
1443 (12pt)
                                                 \topsep 2.5\p@\@plus\p@\@minus\p@
                             \parsep\z@
1444
                            \partopsep \p@ \@plus\z@ \@minus\p@
1445
1446
                            \itemsep\topsep}
1447 \def\@listiv {\leftmargin\leftmarginiv
                                                                         \labelwidth\leftmarginiv
1448
                                                                         \advance\labelwidth-\labelsep}
1449
1450 \def\@listv {\leftmargin\leftmarginv
1451
                                                                         \labelwidth\leftmarginv
1452
                                                                          \advance\labelwidth-\labelsep}
1453 \def\@listvi {\leftmargin\leftmarginvi
1454
                                                                          \labelwidth\leftmarginvi
1455
                                                                         \advance\labelwidth-\labelsep}
1456 (/10pt | 11pt | 12pt)
```

7.4.1 enumerate 環境

enumerate 環境は、カウンタ enumi, enumii, enumii, enumivを使います。enumNはN 番目のレベルの番号を制御します。

```
\theenumi 出力する番号の書式を設定します。これらは、すでに ltlists.dtx で定義されて
         \theenumii います。
      \theenumiii 1457 \langle *article \mid report \mid book \rangle
        \verb|\theenumiv||^{1458} \ensuremath{\langle *tate \rangle}
                                           1459 \renewcommand{\theenumi}{\rensuji{\Qarabic\cQenumi}}
                                           1460 \renewcommand{\theenumii}{\rensuji{(\@alph\c@enumii)}}
                                            1461 \renewcommand{\theenumiii}{\rensuji{\Croman\cQenumiii}}
                                           1462 \renewcommand{\theenumiv}{\rensuji{\@Alph\c@enumiv}}
                                            1463 (/tate)
                                            1464 (*yoko)
                                           1465 \renewcommand{\theenumi}{\Carabic\cQenumi}
                                           1466 \renewcommand{\theenumii}{\@alph\c@enumii}
                                           1467 \renewcommand{\theenumiii}{\@roman\c@enumiii}
                                            1468 \renewcommand{\theenumiv}{\@Alph\c@enumiv}
                                            1469 (/yoko)
     \labelenumi enumerate 環境のそれぞれの項目のラベルは、\labelenumi … \labelenumiv で
   \labelenumii 生成されます。
\labelenumiii 1470 (*tate)
  \label{labelenumi} $$ 1471 \end{{\bf A} labelenumi} {\bf A} $$ (\abelenumi) $$ (
                                           1472 \newcommand{\labelenumii}{\theenumii}
                                           1473 \newcommand{\labelenumiii}{\theenumiii}
                                           1474 \newcommand{\labelenumiv}{\theenumiv}
                                           1475 (/tate)
                                           1476 (*yoko)
```

1477 \newcommand{\labelenumi}{\theenumi.}

```
1478 \newcommand{\labelenumii}{(\theenumii)}
              1479 \newcommand{\labelenumiii}{\theenumiii.}
              1480 \newcommand{\labelenumiv}{\theenumiv.}
              1481 (/yoko)
     \p@enumii \ref コマンドによって、enumerate 環境の N 番目のリスト項目が参照されるとき
    \p@enumiii の書式です。
     \p@enumiv 1482 \renewcommand{\p@enumii}{\theenumi}
              1483 \renewcommand{\p@enumiii}{\theenumi(\theenumii)}
              1484 \renewcommand{\p@enumiv}{\p@enumiii\theenumiii}
enumerate (env.) トップレベルで使われたときに、最初と最後に半行分のスペースを開けるように、
              変更します。この環境は、ltlists.dtxで定義されています。
              1485 \renewenvironment{enumerate}
                    {\ifnum \@enumdepth >\thr@@\@toodeep\else
              1486
              1487
                     \advance\@enumdepth\@ne
                     \edef\@enumctr{enum\romannumeral\the\@enumdepth}%
              1488
                     \expandafter \list \csname label\@enumctr\endcsname{%
              1489
                        \IfDirectionTateT{%
              1490
                          \ifnum \@listdepth=\@ne \topsep.5\normalbaselineskip
              1491
              1492
                            \else\topsep\z@\fi
                          \parskip\z@ \itemsep\z@ \parsep\z@
              1493
                          \labelwidth1\zw \labelsep.3\zw
              1494
                          \ifnum \@enumdepth=\@ne \leftmargin1\zw\relax
              1495
                            \else\leftmargin\leftskip\fi
              1496
              1497
                          \advance\leftmargin 1\zw
              1498
                       }%
              1499
                          \usecounter{\@enumctr}%
              1500
                          \def\makelabel##1{\hss\llap{##1}}}%
                     \fi}{\endlist}
              1501
              7.4.2 itemize 環境
   \labelitemi itemize 環境のそれぞれの項目のラベルは、\labelenumi … \labelenumiv で生成
  \labelitemii されます。
 \verb|\labelitemiii 1502 \newcommand{\labelitemi}{\labelitemfont \textbullet}|
  \labelitemiv 1503 \newcommand{\labelitemii}{%
              1504
                   \IfDirectionTateTF{%
              1505
                       {\labelitemfont \textcircled{~}}
              1506
              1507
                       {\labelitemfont \bfseries\textendash}
              1508
                   }%
              1509 }
              1510 \newcommand{\labelitemiii}{\labelitemfont \textasteriskcentered}
              1511 \newcommand{\labelitemiv}{\labelitemfont \textperiodcentered}
              1512 \newcommand\labelitemfont{\normalfont}
 itemize (env.) トップレベルで使われたときに、最初と最後に半行分のスペースを開けるように、
              変更します。この環境は、ltlists.dtxで定義されています。
```

1513 \renewenvironment{itemize}

```
{\ifnum \@itemdepth >\thr@@\@toodeep\else
1514
       \advance\@itemdepth\@ne
1515
       \edef\@itemitem{labelitem\romannumeral\the\@itemdepth}%
1516
       \expandafter \list \csname \@itemitem\endcsname{%
1517
1518
          \IfDirectionTateT{%
             \ifnum \@listdepth=\@ne \topsep.5\normalbaselineskip
1519
               \else\topsep\z@\fi
1520
             \parskip\z@ \itemsep\z@ \parsep\z@
1521
1522
             \labelwidth1\zw \labelsep.3\zw
             \ifnum \@itemdepth =\@ne \leftmargin1\zw\relax
1523
               \else\leftmargin\leftskip\fi
1524
             \advance\leftmargin 1\zw
1525
          }%
1526
             \def\makelabel##1{\hss\llap{##1}}}%
1527
       \fi}{\endlist}
1528
```

7.4.3 description 環境

description (*env.*) description 環境を定義します。縦組時には、インデントが3字分だけ深くなります。

```
1529 \newenvironment{description}
      {\list{}{\labelwidth\z@ \itemindent-\leftmargin
1530
1531
        \IfDirectionTateT{%
         \leftmargin\leftskip \advance\leftmargin3\Cwd
1532
         \rightmargin\rightskip
1533
         \labelsep=1\zw \itemsep\z@
1534
         \listparindent\z@ \topskip\z@ \parskip\z@ \partopsep\z@
1535
       }%
1536
               \let\makelabel\descriptionlabel}}{\endlist}
1537
```

\descriptionlabel ラベルの形式を変更する必要がある場合は、\descriptionlabelを再定義してください。

```
1538 \newcommand{\descriptionlabel}[1]{%
1539 \hspace\labelsep\normalfont\bfseries #1}
```

7.4.4 verse 環境

verse (env.) verse 環境は、リスト環境のパラメータを使って定義されています。改行をするには \\ を用います。 \\ は \@centercr に \let されています。

```
1540 \newenvironment{verse}
1541 {\let\\@centercr
1542 \list{}{\itemsep\z0 \itemindent -1.5em%
1543 \listparindent\itemindent
1544 \rightmargin\leftmargin \advance\leftmargin 1.5em}%
1545 \item\relax}{\endlist}
```

7.4.5 quotation 環境

quotation (*env.*) quotation 環境もまた、list 環境のパラメータを使用して定義されています。この 環境の各行は、\textwidth よりも小さく設定されています。この環境における、 段落の最初の行はインデントされます。

```
1546 \newenvironment{quotation}
1547 {\list{}{\listparindent 1.5em%}
1548 \itemindent\listparindent
1549 \rightmargin\leftmargin
1550 \parsep\z0 \@plus\p0}%
1551 \item\relax}{\endlist}
```

7.4.6 quote 環境

quote (env.) quote 環境は、段落がインデントされないことを除き、quotation 環境と同じです。

```
1552 \newenvironment{quote}
1553 {\list{}{\rightmargin\leftmargin}%
1554 \item\relax}{\endlist}
```

7.5 フロート

ltfloat.dtx では、フロートオブジェクトを操作するためのツールしか定義していません。タイプが TYPE のフロートオブジェクトを扱うマクロを定義するには、次の変数が必要です。

\fps@TYPE タイプ TYPE のフロートを置くデフォルトの位置です。

\ftype@TYPE タイプ TYPE のフロートの番号です。各 TYPE には、一意な、2 の倍数の TYPE 番号を割り当てます。たとえば、図が番号 1 ならば、表は 2 です。次のタイプは 4 となります。

\ext@TYPE タイプ TYPE のフロートの目次を出力するファイルの拡張子です。た とえば、\ext@figure は 'lot' です。

\fnum@TYPE キャプション用の図番号を生成するマクロです。たとえば、 \fnum@figure は '図 \thefigure' を作ります。

7.5.1 figure 環境

ここでは、figure 環境を実装しています。

```
\c@figure 図番号です。
```

```
\label{lem:counter} $$ \left(\frac{\left(\frac{\left(\frac{1}{2}\right) \cdot \left(\frac{1}{2}\right)}{\operatorname{counter}\left(\frac{1}{2}\right)}}{1556} \left(\frac{\left(\frac{1}{2}\right) \cdot \left(\frac{1}{2}\right)}{1557} \left(\frac{1}{2}\right)}{1557} \left(\frac{1}{2}\right) \cdot \left(\frac{1}{2}\right) \cdot \left(\frac{1}{2}\right)}{1558} \left(\frac{1}{2}\right) \cdot \left(\frac{1
```

```
1566 (*report | book)
                                 1567 \renewcommand{\thefigure}{%
                                 1568 \ifnum\c@chapter>\z@\thechapter.\fi\@arabic\c@figure}
                                  1569 (/report | book)
                                  1570 (/yoko)
    \fps@figure フロートオブジェクトタイプ "figure" のためのパラメータです。
\ftype@figure 1571 \def\fps@figure{tbp}
    \ext@figure 1572 \def\ftype@figure{1}
                                 1573 \def\ext@figure{lof}
  \label{lem:continum} $$\inf_{1574} \ \hat{\theta} \rightarrow \frac{1}{1000} .
                                 1575 (yoko)\def\fnum@figure{\figurename~\thefigure}
   figure (env.) *形式は2段抜きのフロートとなります。
figure* (env.) 1576 \newenvironment{figure}
                                                                               {\@float{figure}}
                                 1577
                                 1578
                                                                               {\end@float}
                                 1579 \newenvironment{figure*}
                                                                               {\@dblfloat{figure}}
                                 1580
                                 1581
                                                                               {\end@dblfloat}
                                 7.5.2 table 環境
                                  ここでは、table 環境を実装しています。
           \c@table 表番号です。
          \thetable 1582 \article \newcounter{table}
                                 1583 (report | book) \newcounter{table} [chapter]
                                 1584 (*tate)
                                 1585 (article) \renewcommand{\thetable}{\rensuji{\@arabic\c@table}}
                                 1586 (*report | book)
                                 1587 \renewcommand{\thetable}{%
                                              \ifnum\c@chapter>\z@\thechapter{} · \fi\rensuji{\@arabic\c@table}}
                                 1589 \langle / \text{report} | \text{book} \rangle
                                 1590 (/tate)
                                 1591 (*yoko)
                                  1592 \langle article \rangle \ renewcommand{ \ thetable} {\ Carabic \ CCtable}
                                  1593 (*report | book)
                                 1594 \renewcommand{\thetable}{%
                                 \label{local_local_local_local_local} $$1595 \quad \left(\frac{c@chapter}{z@\theta^chapter}\right) = \frac{1}{2} \left(\frac{c@chapter}{c@chapter}\right) $$
                                 1596 (/report | book)
                                 1597 (/yoko)
       \fps@table フロートオブジェクトタイプ "table" のためのパラメータです。
  \ftype@table 1598 \def\fps@table{tbp}
      \ext@table 1599 \def\ftype@table{2}
                                 1600 \def\ext@table{lot}
     \label{lem:condition} $$\inf_{1601} \ \langle tate \rangle \cdot def \int_{0.01} \ table_{0.01} \ def \ 
                                 1602 \langle yoko \rangle \def fnum@table{\tablename~\thetable}
```

```
table (env.) *形式は2段抜きのフロートとなります。
table* (env.) 1603 \newenvironment{table}
                              {\@float{table}}
            1604
            1605
                              {\end@float}
            1606 \newenvironment{table*}
            1607
                              {\@dblfloat{table}}
            1608
                              {\end@dblfloat}
```

7.6 キャプション

\@makecaption \caption コマンドは、キャプションを組み立てるために \@mkcaption を呼出ま す。このコマンドは二つの引数を取ります。一つは、〈number〉で、フロートオブ ジェクトの番号です。もう一つは、〈text〉でキャプション文字列です。〈number〉 には通常、'図 3.2' のような文字列が入っています。このマクロは、\parbox の中 で呼び出されます。書体は\normalsizeです。

\abovecaptionskip これらの長さはキャプションの前後に挿入されるスペースです。

- \belowcaptionskip 1609 \newlength\abovecaptionskip
 - 1610 \newlength\belowcaptionskip
 - 1611 \setlength\abovecaptionskip{10\p@}
 - $1612 \setlength\belowcaptionskip{0p0}$

キャプション内で複数の段落を作成することができるように、このマクロは \long で定義をします。

```
1613 \long\def\@makecaption#1#2{%
1614
      \vskip\abovecaptionskip
      \IfDirectionTateTF{\sbox\@tempboxa{#1\hskip1\zw#2}%
1616
        }{\sbox\@tempboxa{#1: #2}%
1617
      \ifdim \wd\@tempboxa >\hsize
1618
        \IfDirectionTateTF{#1\hskip1\zw#2\relax\par
1619
          }{#1: #2\relax\par}%
1620
1621
      \else
        \global \@minipagefalse
1622
```

\hb@xt@\hsize{\hfil\box\@tempboxa\hfil}% 1623

1624

\vskip\belowcaptionskip} 1625

コマンドパラメータの設定 7.7

7.7.1 array と tabular 環境

\arraycolsep array 環境のカラムは 2\arraycolsep で分離されます。 1626 \setlength\arraycolsep{5\p0}

\tabcolsep tabular 環境のカラムは 2\tabcolsep で分離されます。 1627 \setlength\tabcolsep{6\p0}

\arrayrulewidth array と tabular 環境内の罫線の幅です。
1628 \setlength\arrayrulewidth{.4\p@}

| doublerulesep array と tabular 環境内の罫線間を調整する空白です。 | 1629 \setlength\doublerulesep{2\p0}

7.7.2 tabbing 環境

\tabbingsep \' コマンドで置かれるスペースを制御します。
1630 \setlength\tabbingsep{\labelsep}

7.7.3 minipage 環境

\@mpfootins minipage にも脚注を付けることができます。\skip\@mpfootins は、通常の\skip\footins と同じような動作をします。

1631 \skip\@mpfootins = \skip\footins

7.7.4 framebox 環境

\fboxsep \fboxsep は、\fbox と \framebox での、テキストとボックスの間に入る空白で \fboxrule す。\fboxrule は \fbox と \framebox で作成される罫線の幅です。

1632 \setlength\fboxsep{3\p0}
1633 \setlength\fboxrule{.4\p0}

7.7.5 equation と eqnarray 環境

\theequation equation カウンタは、新しい章の開始でリセットされます。また、equation 番号には、章番号が付きます。

このコードは \chapter 定義の後、より正確には chapter カウンタの定義の後、でなくてはいけません。

1635 (*report | book)

1636 \@addtoreset{equation}{chapter}

1637 \renewcommand{\theequation}{%

1638 \ifnum\c@chapter>\z@\thechapter.\fi \@arabic\c@equation}

1639 (/report | book)

8 フォントコマンド

ここでは \LaTeX 2.09 で一般的に使われていたコマンドを定義しています。これらのコマンドはテキストモードと数式モードのどちらでも動作します。これらは互換性のために提供をしますが、できるだけ \text... と \math... を使うようにしてください。

\mc これらのコマンドはフォントファミリを変更します。互換モードの同名コマンド

\gt と異なり、すべてのコマンドがデフォルトフォントにリセットしてから、対応する

\rm 属性を変更することに注意してください。

- \sf 1640 \DeclareOldFontCommand{\mc}{\normalfont\mcfamily}{\mathmc}
- 1641 \DeclareOldFontCommand{\gt}{\normalfont\gtfamily}{\mathgt}
 - 1642 \DeclareOldFontCommand{\rm}{\normalfont\rmfamily}{\mathrm}
 - $1643 \verb|\DeclareOldFontCommand{\sf}{\normalfont\sffamily}{\mbox{\mbox{$mathsf}$}}$
 - $1644 \end{\text{\command}\tt} {\normalfont\ttfamily} {\mbox{\command}\tt} \\$
- \bf このコマンドはボールド書体にします。ノーマル書体に変更するには、\mdseries と指定をします。
- \it これらのコマンドはフォントシェイプを切替えます。スラント体とスモール
- \sl キャップの数式アルファベットはありませんので、数式モードでは何もしません
- \sc が、警告メッセージを出力します。\upshape コマンドで通常のシェイプにすることができます。
 - $1646 \ensuremath{\texttt{Normalfont}} {\texttt{Normalfont}} {\texttt{Normalfon$
 - $1647 \verb|\DeclareOldFontCommand{\sl}{\normalfont\slshape}{\command\sl}$
 - $1648 \end{\command{$
- \cal これらのコマンドは数式モードでだけ使うことができます。数式モード以外では \mit 何もしません。現在の NFSS は、これらのコマンドが警告を生成するように定義 していますので、'手ずから' 定義する必要があります。
 - 1649 \DeclareRobustCommand*{\cal}{\@fontswitch\relax\mathcal}
 - 1650 \DeclareRobustCommand*{\mit}{\@fontswitch\relax\mathnormal}

9 相互参照

9.1 目次

\section コマンドは、.toc ファイルに、次のような行を出力します。

 $\verb|\contentsline{section}| \{\langle title \rangle\} \{\langle page \rangle\}|$

 $\langle title \rangle$ には項目が、 $\langle page \rangle$ にはページ番号が入ります。\section に見出し番号が付く場合は、 $\langle title \rangle$ は、\numberline { $\langle num \rangle$ } { $\langle heading \rangle$ } となります。 $\langle num \rangle$ は\thesection コマンドで生成された見出し番号です。 $\langle heading \rangle$ は見出し文字列です。この他の見出しコマンドも同様です。

figure 環境での \caption コマンドは、.lof ファイルに、次のような行を出力します。

\contentsline{figure}{\numberline{ $\langle num \rangle$ }{ $\langle caption \rangle$ }}{ $\langle page \rangle$ }

 $\langle num \rangle$ は、\thefigure コマンドで生成された図番号です。 $\langle caption \rangle$ は、キャプション文字列です。 table 環境も同様です。

\contentsline $\{\langle name \rangle\}$ コマンドは、\locale \(locale \) に展開されます。したがって、目次の体裁を記述するには、\locale \(locale \) (locale \) に表記さるとは、\locale \(locale \) に表記さるとは、\locale \(locale \) に表記さるとは、\locale \(locale \) に表記さるとは、\locale \(locale \) に表記されます。図

目次のためには \logique です。これらの多くのコマンドは \@dottedtocline コマンドで定義されています。このコマンドは次のような書式となっています。

 $\verb|\dottedtocline|{\langle level\rangle}|{\langle indent\rangle}|{\langle numwidth\rangle}|{\langle title\rangle}|{\langle page\rangle}|$

 $\langle \textit{level} \rangle$ " $\langle \textit{level} \rangle <= \textit{tocdepth}$ " のときにだけ、生成されます。\chapter はレベル 0 、\section はレベル 1 、... です。

 $\langle indent \rangle$ 一番外側からの左マージンです。

 $\langle numwidth \rangle$ 見出し番号(\numberline コマンドの $\langle num \rangle$)が入るボックスの幅です。

\c@tocdepth tocdepth は、目次ページに出力をする見出しレベルです。

1651 \article \setcounter \tocdepth \{3\}

1652 (!article)\setcounter{tocdepth}{2}

また、目次を生成するために次のパラメータも使います。

\@pnumwidth ページ番号の入るボックスの幅です。

1653 \newcommand{\@pnumwidth}{1.55em}

\Otocrmarg 複数行にわたる場合の右マージンです。

1654 \newcommand{\@tocrmarg}{2.55em}

\@dotsep ドットの間隔 (mu 単位) です。2 や 1.7 のように指定をします。

1655 \newcommand{\@dotsep}{4.5}

\toclineskip この長さ変数は、目次項目の間に入るスペースの長さです。デフォルトはゼロとなっています。縦組のとき、スペースを少し広げます。

 $1656 \mbox{ \newdimen\toclineskip}$

1657 (yoko)\setlength\toclineskip{\z@}

 $1658 \langle tate \rangle \setminus setlength \setminus toclineskip \{2 \setminus p0\}$

\numberline \numberline マクロの定義を示します。オリジナルの定義では、ボックスの幅を \@lnumwidth \@tempdima にしていますが、この変数はいろいろな箇所で使われますので、期待 した値が入らない場合があります。

フォント選択コマンドの後、あるいは \numberline マクロの中でフォントを切替えてもよいのですが、一時変数を意識したくないので、見出し番号の入るボックスを \@lnumwidth 変数を用いて組み立てるように \numberline マクロを再定義します。

1659 \newdimen\@lnumwidth

1660 \def\numberline#1{\hb@xt@\@lnumwidth{#1\hfil}}

\@dottedtocline 目次の各行間に \toclineskip を入れるように変更します。このマクロは ltsect.dtx で定義されています。

1661 \def\@dottedtocline#1#2#3#4#5{%

```
\ifnum #1>\c@tocdepth \else
                1662
                        \vskip\toclineskip \@plus.2\p@
                1663
                        {\leftskip #2\relax \rightskip \@tocrmarg \parfillskip -\rightskip
                1664
                1665
                         \parindent #2\relax\@afterindenttrue
                1666
                         \interlinepenalty\@M
                         \leavevmode
                1667
                         \@lnumwidth #3\relax
                1668
                         \advance\leftskip \@lnumwidth \null\nobreak\hskip -\leftskip
                1669
                1670
                         {#4}\nobreak
                         \leaders\hbox{$\m0th \mkern \0dotsep mu.\mkern \0dotsep mu$}%
                1671
                         \hfill\nobreak
                1672
                         \hb@xt@\@pnumwidth{\hss\normalfont \normalcolor #5}%
                1673
                         \par}%
                1674
                1675
                     \fi}
\addcontentsline 縦組の場合にページ番号を \rensuji で囲むように変更します。
                  このマクロは ltsect.dtx で定義されています。
                1676 \providecommand*\protected@file@percent{}
                1677 \def\addcontentsline#1#2#3{%
                     \protected@write\@auxout
                1678
                        {\let\label\@gobble \let\index\@gobble \let\glossary\@gobble
                1679
                             \@temptokena{\rensuji{\thepage}}%
                1680 (tate)
                1681 (yoko)
                             \@temptokena{\thepage}%
                1682
                       }{\string\@writefile{#1}%
                1683
                          {\protect\contentsline{#2}{#3}{\the\@temptokena}{}%
                1684
                           \protected@file@percent}}%
                1685 }
                9.1.1 本文目次
\tableofcontents 目次を生成します。
                1686 \newcommand{\tableofcontents}{%
                1687 (*report | book)
                      \if@twocolumn\@restonecoltrue\onecolumn
                1688
                1689
                      \else\@restonecolfalse\fi
                1690 (/report | book)
                1691 (article)
                           \section*{\contentsname
                1692 (!article)
                            \chapter*{\contentsname
                \tableofcontents では、\@mkboth は heading の中に入れてあります。ほかの命
                令(\listoffigures など)については、\@mkboth は heading の外に出してあり
                ます。これは LATEX の classes.dtx に合わせています。
                       \@mkboth{\contentsname}{\contentsname}%
                     }\@starttoc{toc}%
                1696 }
        \1@part part レベルの目次です。
                1697 \newcommand*{\l@part}[2]{%
                1698 \ifnum \c@tocdepth >-2\relax
                1699 ⟨article⟩
                              \addpenalty{\@secpenalty}%
                              \addpenalty{-\@highpenalty}%
                1700 (!article)
```

```
\addvspace{2.25em \@plus\p@}%
                           1701
                           1702
                                               \begingroup
                                               \parindent\z@\rightskip\@pnumwidth
                           1703
                                               \parfillskip-\@pnumwidth
                           1704
                                               {\leavevmode\large\bfseries
                           1705
                                                 \setlength\@lnumwidth{4\zw}%
                           1706
                                                 #1\hfil\nobreak
                           1707
                           1708
                                                 \hb@xt@\@pnumwidth{\hss#2}}\par
                           1709
                                               \nobreak
                                                               \if@compatibility
                           1710 (article)
                                               \global\@nobreaktrue
                           1711
                                               \everypar{\global\@nobreakfalse\everypar{}}%
                           1712
                           1713 (article)
                           1714
                                                 \endgroup
                           1715
\lochapter chapter レベルの目次です。
                           1716 (*report | book)
                           1717 \newcommand*{\l@chapter}[2]{%
                                          \ifnum \c@tocdepth >\m@ne
                           1718
                           1719
                                               \addpenalty{-\@highpenalty}%
                                               \addvspace{1.0em \@plus\p@}%
                           1720
                           1721
                                               \begingroup
                                                    \parindent\z@\rightskip\@pnumwidth\parfillskip-\rightskip
                           1722
                                                    \leavevmode\bfseries
                           1723
                                                    \setlength\@lnumwidth{4\zw}%
                           1724
                                                    \verb|\advance| leftskip| @lnumwidth \ \verb|\hskip-| leftskip| |
                           1725
                                                    #1\nobreak\hfil\nobreak\hb@xt@\pnumwidth{\hss#2}\par
                           1726
                           1727
                                                    \penalty\@highpenalty
                           1728
                                               \endgroup
                           1729
                                          \{fi\}
                           1730 (/report | book)
\l@section section レベルの目次です。
                           1731 (*article)
                           1732 \newcommand*{\losection}[2]{\%}
                                         1733
                                               \verb|\addpenalty{\@secpenalty}|| % \end{substitute} % % \end{substitute} 
                           1734
                           1735
                                               \addvspace{1.0em \@plus\p@}%
                           1736
                                               \begingroup
                                                    \parindent\z@\rightskip\@pnumwidth\parfillskip-\rightskip
                           1737
                                                    \leavevmode\bfseries
                           1738
                           1739
                                                    \setlength\@lnumwidth{1.5em}%
                           1740
                                                    \advance\leftskip\@lnumwidth \hskip-\leftskip
                           1741
                                                    \verb|#1\nobreak\hfil\nobreak\hb@xt@\@pnumwidth{\hss\#2}\par|
                           1742
                                               \endgroup
                                         \{fi\}
                           1743
                           1744 (/article)
                           1745 (*report | book)
                           1746 \text{ (tate)} \newcommand*{\l@section}{\l@dottedtocline{1}{1}zw}{4}zw}
                           1747 \text{ (yoko)} \newcommand*{\l@section}{\l@dottedtocline{1}{1.5em}{2.3em}}
                           1748 (/report | book)
```

```
\losubsection 下位レベルの目次項目の体裁です。
\l0subsubsection 1749 \langle *tate \rangle
            \1@paragraph ^{1750} (*article)
                                                    1751 \newcommand*{\l@subsection}
                                                                                                                                                           {\dot{dottedtocline}{2}{1\zw}{4\zw}}
   1753 \newcommand*{\l0paragraph} {\0dottedtocline{4}{3\zw}{8\zw}}
                                                    1754 \newcommand*{\l0subparagraph} {\0dottedtocline{5}{4\zw}{9\zw}}
                                                    1755 (/article)
                                                    1756 (*report | book)
                                                    1757 \newcommand*{\l@subsection}
                                                                                                                                                          {\dottedtocline{2}{2}zw}{6}zw}
                                                    1758 \newcommand*{\l0subsubsection}{\0dottedtocline{3}{3\zw}{8\zw}}
                                                    1759 \newcommand*{\l@paragraph}
                                                                                                                                                     {\0dottedtocline{4}{4}zw}{9}zw}
                                                    1760 \mbox{ newcommand} {\mbox{0dottedtocline{5}{5}zw}{10}zw}
                                                    1761 (/report | book)
                                                    1762 (/tate)
                                                    1763 (*yoko)
                                                    1764 (*article)
                                                    1765 \newcommand*{\l@subsection}
                                                                                                                                                        \{\0 dotted to cline \{2\}\{1.5em\}\{2.3em\}\}
                                                    1766 \mbox{ } 
                                                    1767 \newcommand*{\l@paragraph}
                                                                                                                                                      \{\0 dottedtocline{4}{7.0em}{4.1em}\}
                                                    1768 \end{thm} $$ \end{thm} $
                                                    1769 (/article)
                                                    1770 (*report | book)
                                                    1771 \newcommand*{\l@subsection}
                                                                                                                                                           {\cline{2}{3.8em}{3.2em}}
                                                    1772 \newcommand*{\l@subsubsection}{\@dottedtocline{3}{7.0em}{4.1em}}
                                                    1773 \newcommand*{\l@paragraph}
                                                                                                                                                          {\@dottedtocline{4}{10em}{5em}}
                                                    1774 \newcommand*{\l@subparagraph} {\@dottedtocline{5}{12em}{6em}}
                                                    1775 (/report | book)
                                                    1776 (/yoko)
                                                    9.1.2 図目次と表目次
      \listoffigures 図の一覧を作成します。
                                                    1777 \newcommand{\listoffigures}{%
                                                    1778 (*report | book)
                                                    1779
                                                                      \if@twocolumn\@restonecoltrue\onecolumn
                                                                      \else\@restonecolfalse\fi
                                                    1780
                                                                      \chapter*{\listfigurename}%
                                                    1782 (/report | book)
                                                    1783 (article)
                                                                                                \section*{\listfigurename}%
                                                                    \@mkboth{\listfigurename}{\listfigurename}%
                                                    1784
                                                                      \@starttoc{lof}%
                                                    1785
                                                    1786 \langle report \mid book \rangle \land if@restonecol \land twocolumn \land fi
                                                    1787 }
                     \lOffigure 図目次の体裁です。
                                                    1788 \langle tate \rangle \newcommand*{\l@figure}{\l@dottedtocline{1}{1}zw}{4}zw}
                                                    1789 \langle yoko \rangle \ \newcommand*{\l0figure}{\\0dottedtocline{1}{1.5em}{2.3em}}
         \listoftables 表の一覧を作成します。
                                                    1790 \newcommand{\listoftables}{%
                                                    1791 (*report | book)
```

```
\chapter*{\listtablename}%
                     1794
                     1795 (/report | book)
                                   \section*{\listtablename}%
                     1796 (article)
                           \@mkboth{\listtablename}{\listtablename}%
                           \@starttoc{lot}%
                     1799 \langle report \mid book \rangle \land if@restonecol \land twocolumn \land fi
                     1800 }
            \lotable 表目次の体裁は、図目次と同じにします。
                     1801 \let\l@table\l@figure
                     9.2 参考文献
          \bibindent オープンスタイルの参考文献で使うインデント幅です。
                     1802 \newdimen\bibindent
                     1803 \setlength\bibindent{1.5em}
           \newblock \newblock のデフォルト定義は、小さなスペースを生成します。
                     1804 \newcommand{\newblock}{\hskip .11em\@plus.33em\@minus.07em}
thebibliography (env.) 参考文献や関連図書のリストを作成します。
                     1805 \newenvironment{thebibliography}[1]
                     1807 \langle report \mid book \rangle \{ \langle chapter*\{ \langle bibname \} \langle mkboth\{ \langle bibname \} \} \} \}
                            \list{\@biblabel{\@arabic\c@enumiv}}%
                     1808
                     1809
                                 {\settowidth\labelwidth{\@biblabel{#1}}%
                                  \leftmargin\labelwidth
                     1810
                                  \advance\leftmargin\labelsep
                     1811
                                  \@openbib@code
                     1812
                     1813
                                  \usecounter{enumiv}%
                     1814
                                  \let\p@enumiv\@empty
                                 \renewcommand\theenumiv{\@arabic\c@enumiv}}%
                     1815
                     1816
                           \sloppy
                           \clubpenalty4000
                     1817
                     1818
                            \@clubpenalty\clubpenalty
                            \widowpenalty4000%
                     1819
                           \sfcode`\.\@m}
                     1820
                     1821
                           {\def\@noitemerr
                             {\@latex@warning{Empty `thebibliography' environment}}%
                     1822
                     1823
                            \endlist}
      \@openbib@code \@openbib@code のデフォルト定義は何もしません。この定義は、openbib オプ
                     ションによって変更されます。
                     1824 \let\@openbib@code\@empty
          \@biblabel The label for a \bibitem[...] command is produced by this macro. The default
                     from latex.dtx is used.
                     1825 % \renewcommand*{\@biblabel}[1]{[#1]\hfill}
```

\if@twocolumn\@restonecoltrue\onecolumn

\else\@restonecolfalse\fi

1792

1793

\@cite The output of the \cite command is produced by this macro. The default from ltbibl.dtx is used.

1826 % \renewcommand*{\@cite}[1]{[#1]}

9.3 索引

theindex (env.) 2 段組の索引を作成します。索引の先頭のページのスタイルは jpl@in とします。 したがって、headingsと bothstyleに適した位置に出力されます。

1827 \newenvironment{theindex}

 ${\tt \{\footstarteright (a) fine the column \colors (a) fine the column \colors (a) fine the column \colors (b) fine the column \colors (b) fine the column \colors (c) fine the colors (c) fine the column \colors (c) fine the colors (c) fine th$

1829 (article) \twocolumn[\section*{\indexname}]%

1830 (report | book) \twocolumn[\@makeschapterhead{\indexname}]%

1831 \@mkboth{\indexname}{\indexname}%

\thispagestyle{jpl@in}\parindent\z@ 1832

パラメータ \columnseprule と \columnsep の変更は、\twocolumn が実行された 後でなければなりません。そうしないと、索引の前のページにも影響してしまう ためです。

\parskip\z@ \@plus .3\p@\relax 1833

\columnseprule\z@ \columnsep 35\p@ 1834

\let\item\@idxitem} 1835

{\if@restonecol\onecolumn\else\clearpage\fi}

\@idxitem 索引項目の字下げ幅です。\@idxitem は \item の項目の字下げ幅です。

 $\verb|\subitem 1837 \end{$\tt 0idxitem} {\tt 1837 \end 40\p0}|$

1839 \newcommand{\subsubitem}{\@idxitem \hspace*{30\p@}}

\indexspace 索引の"文字"見出しの前に入るスペースです。

9.4 脚注

\footnoterule 本文と脚注の間に引かれる罫線です。

1841 \renewcommand{\footnoterule}{%

1842 $\mbox{kern-3}p@$

\hrule\@width.4\columnwidth 1843

 $\mbox{kern2.6}p0$ 1844

\c@footnote report と book クラスでは、chapter レベルでリセットされます。

 $1845 \langle !article \rangle \ @addtoreset{footnote}{chapter}$

\@makefntext このマクロにしたがって脚注が組まれます。

\@makefnmark は脚注記号を組み立てるマクロです。

1846 (*tate)

1847 \newcommand \@makefntext[1] {\parindent $1 \ge w$

\noindent\hb@xt@ 2\zw{\hss\@makefnmark}#1}

1849 (/tate)

```
1850 (*yoko)
1851 \newcommand\@makefntext[1]{\parindent 1em
1852 \noindent\hb@xt@ 1.8em{\hss\@makefnmark}#1}
1853 (/yoko)
```

10 今日の日付

組版時における現在の日付を出力します。

\if 西暦 \today コマンドの '年' を、西暦か和暦のどちらで出力するかを指定するコマンド \西暦 です。2018 年 7 月以降の日本語 T_E X 開発コミュニティ版 (v1.8) では、デフォルト \和暦 を和暦ではなく西暦に設定しています。

```
1854 \newif\if 西曆 \西曆 true
1855 \def\西曆{\西曆 true}
1856 \def\和曆{\西暦 false}
```

\heisei \today コマンドを \rightmark で指定したとき、\rightmark を出力する部分で 和暦のための計算ができないので、クラスファイルを読み込む時点で計算しておきます。

1857 \newcount\heisei \heisei\year \advance\heisei-1988\relax

\today 縦組の場合は、漢数字で出力します pIFTEX 2018-12-01 以前では縦数式ディレク \pltx@today@year ション時でも漢数字で出力していましたが、pIFTEX 2019-04-06 以降からはそうしなくなりました。

```
1858 \def\pltx@today@year@#1{%
     \ifnum\numexpr\year-#1=1 元\else
1860
       \ifnum1=\IfDirectionTateTF{1}{0}%
1861
         \tokansuji{\year-#1}%
1862
       \else
         \number\numexpr\year-#1\relax\nobreak
1863
       \fi
1864
     \fi 年
1865
1866 }
1867 \def\pltx@today@year{%
1868
     \int \sum_{x=0}^{1000} \sinh 100 + \sinh 100 + \cosh 200 = 100 
       昭和\pltx@today@year@{1925}%
     1870
1871
       平成\pltx@today@year@{1988}%
1872
     \else
       令和\pltx@today@year@{2018}%
1873
     \fi\fi}
1874
1875 \def\today{{%}
     \if 西暦
1876
1877
       \ifnum1=\IfDirectionTateTF{1}{0}\tokansuji{\year}%
1878
       \else\number\year\nobreak\fi 年
1879
     \else
1880
       \pltx@today@year
1881
    \fi
1882 \ifnum1=\IfDirectionTateTF{1}{0}%
```

```
1883 \tokansuji{\month}月
1884 \tokansuji{\day}日
1885 \else
1886 \number\month\nobreak 月
1887 \number\day\nobreak 日
```

11 初期設定

\prepartname

```
\postpartname 1889 \newcommand{\prepartname}{第}
 \prechaptername 1890 \newcommand{\postpartname}{部}
                  1891 (report | book) \newcommand {\prechaptername} {第}
\postchaptername 1892 \(\rightarrow\) \newcommand{\postchaptername}{章}
   \contentsname
 \listfigurename 1893 \newcommand{\contentsname}{目 次}
  \listtablename 1894 \newcommand{\listfigurename}{図 目 次}
                  1895 \newcommand{\listtablename}{表 目 次}
        \refname
        \bibname 1896 \article \newcommand {\refname} {参考文献}
      \indexname 1897 \(\rangle\report \| book \\newcommand{\bibname}{関連図書}
                  1898 \newcommand{\indexname}{索 引}
     \figurename
      \tablename 1899 \newcommand{\figurename}{図}
                  1900 \newcommand{\tablename}{表}
   \appendixname
   \abstractname 1901 \newcommand{\appendixname}{付 録}
                  1902 (article | report) \newcommand {\abstractname} {概 要}
                  1903 (book)\pagestyle{headings}
                  1904 \langle !book \rangle \setminus pagestyle\{plain\}
                  1905 \pagenumbering{arabic}
                  1906 \raggedbottom
                  1907 \if@twocolumn
                  1908 \twocolumn
                  1909
                        \sloppy
                  1910 \else
                  1911
                       \onecolumn
                  1912 \fi
```

\@mparswitch は傍注を左右(縦組では上下)どちらのマージンに出力するかの指定です。偽の場合、傍注は一方の側にしか出力されません。このスイッチを真とすると、とくに縦組の場合、奇数ページでは本文の上に、偶数ページでは本文の下に傍注が出力されますので、おかしなことになります。

また、縦組のときには、傍注を本文の下に出すようにしています。 \reversemarginpar とすると本文の上側に出力されます。ただし、二段組の場合は、つねに隣接するテキスト側のマージンに出力されます。

- 1913 (*tate)
- 1914 \normalmarginpar
- $1915 \setminus Omparswitchfalse$
- 1916 (/tate)
- 1917 $\langle *yoko \rangle$
- $1918 \setminus if@twoside$
- 1919 \@mparswitchtrue
- 1920 **\else**
- 1921 \@mparswitchfalse
- 1922 \fi
- 1923 (/yoko)
- $_{1924}\; \langle / \mathsf{article} \: | \: \mathsf{report} \: | \: \mathsf{book} \rangle$